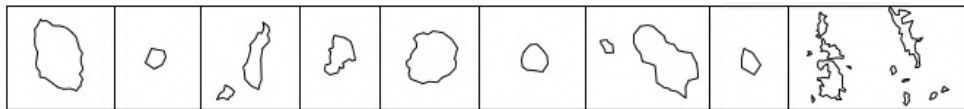


4 圏域ごとの状況

(5) 区西北部

(豊島区・北区・板橋区・練馬区)



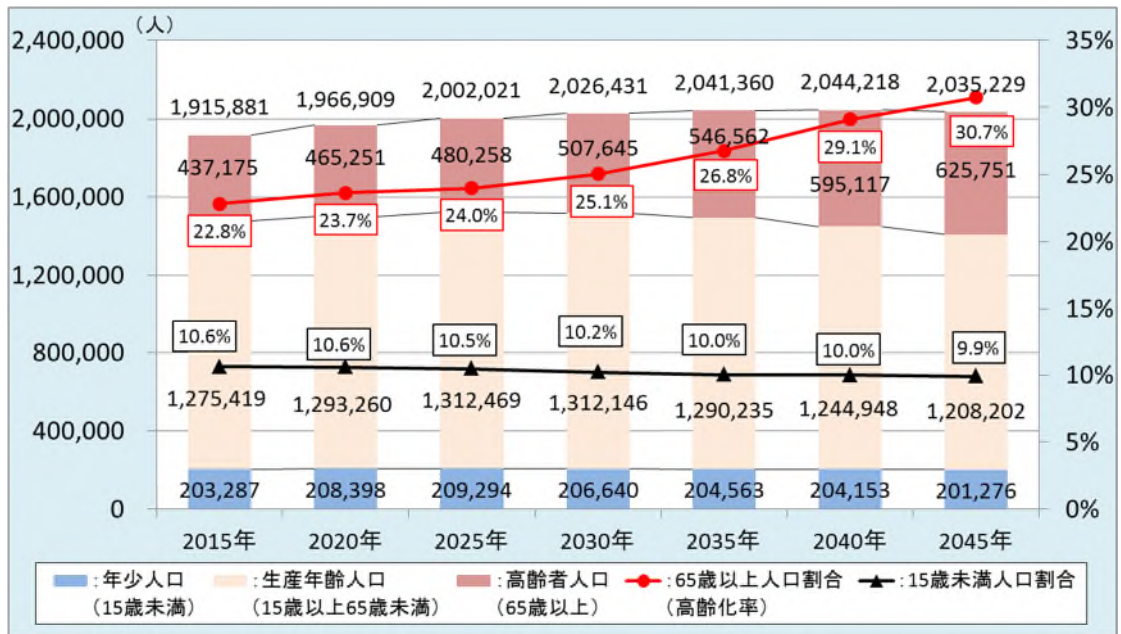
5 区西北部

(1) 人口・面積・人口密度

(人口) 1,967,825 人・(面積) 113.92 km²・(人口密度) 17,274 人/km²

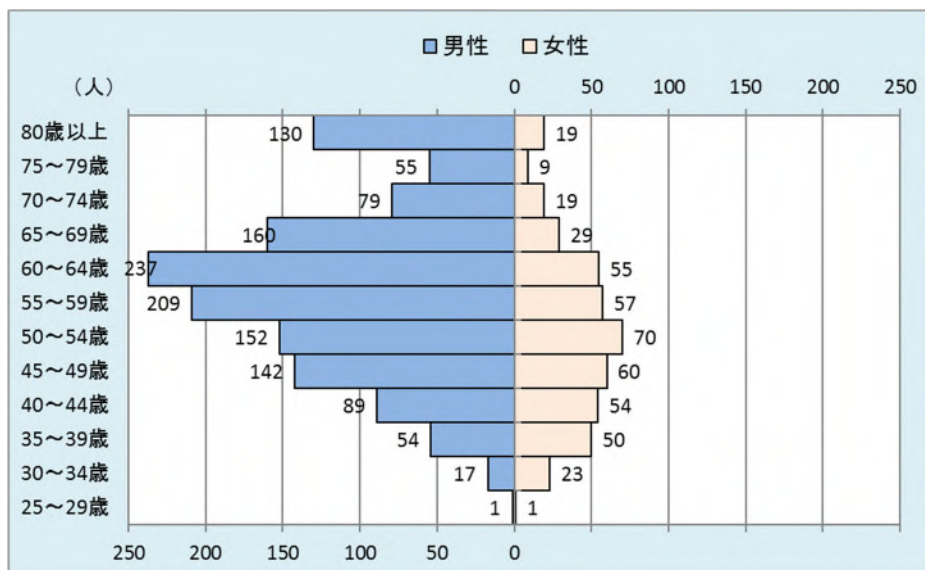
(2) 人口高齢化率の推移

- 区西北部の人口は、2040年にピークを迎え、約204万人に達する見込みです。高齢者人口は増加を続け、2045年には60万人を超えることが予測されています。
- 高齢化率は上昇を続け、2045年には30%を超えることが予測されています



(3) 診療所医師の年齢・性構成割合

- 男性医師では60歳以上65歳未満の区分が237人、女性医師では50歳以上55歳未満の区分が70人で、それぞれ最も多くなっています。
- 35歳以上の各区分で、男性医師数が女性医師数を上回っています。

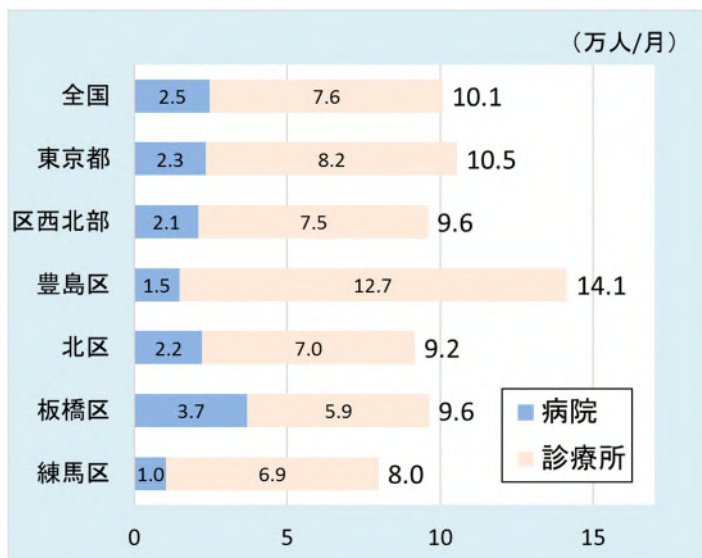


(4) 外来医療の状況

① 外来医師偏在指標

128.3 (全国第31位/全国335医療圏中)

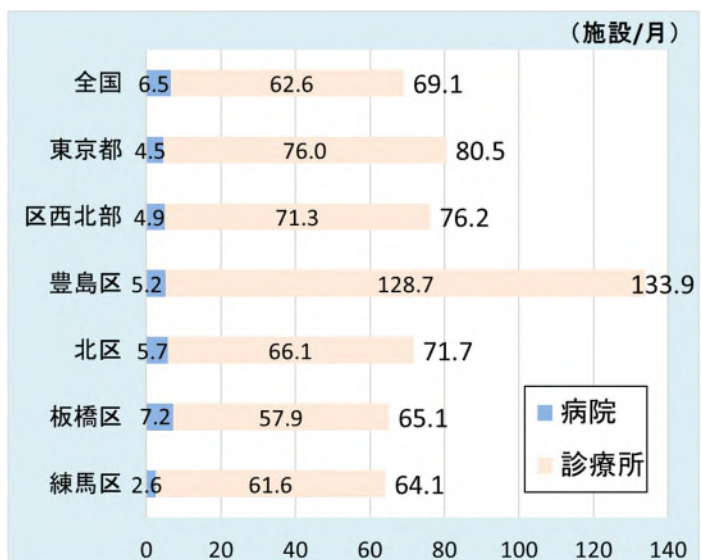
② 人口10万人当たりの外来患者延数(医科レセプトの月平均算定回数)



○ 区西北部における、人口10万人当たりの外来患者延数は9.6万人で、全国や都の平均を下回っています。

○ 区別で見ると、豊島区では14.1万人であり、全国や都の平均を上回っていますが、他の区では全国や都の平均を下回っています。

③ 人口10万人当たりの外来施設数(月平均施設数)



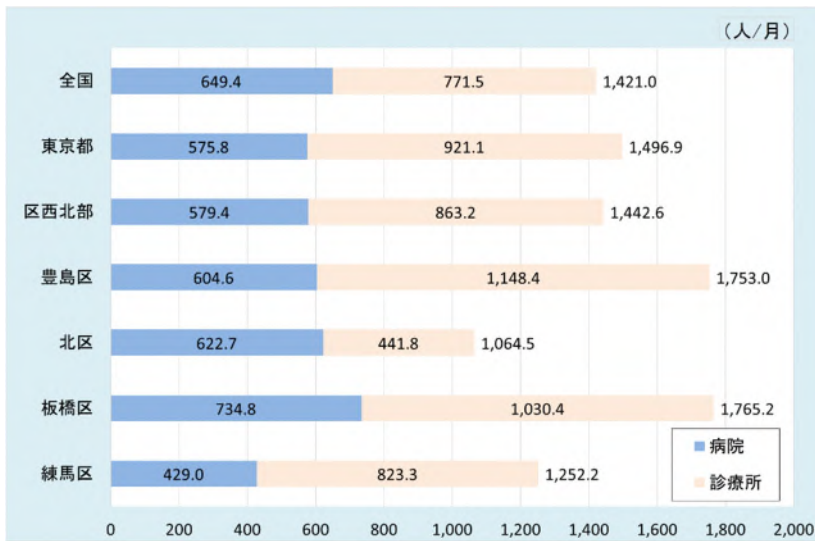
○ 区西北部の人口10万人当たり外来施設数は76.2施設であり、全国の平均を上回る一方、都の平均を下回っています。

○ 区別で見ると、豊島区では133.9施設であり、全国平均の約2倍となっています。また、板橋区と練馬区の施設数は、全国や都の平均を共に下回っています。

④ 外来医療機能別の状況

ア 夜間・休日における初期救急医療

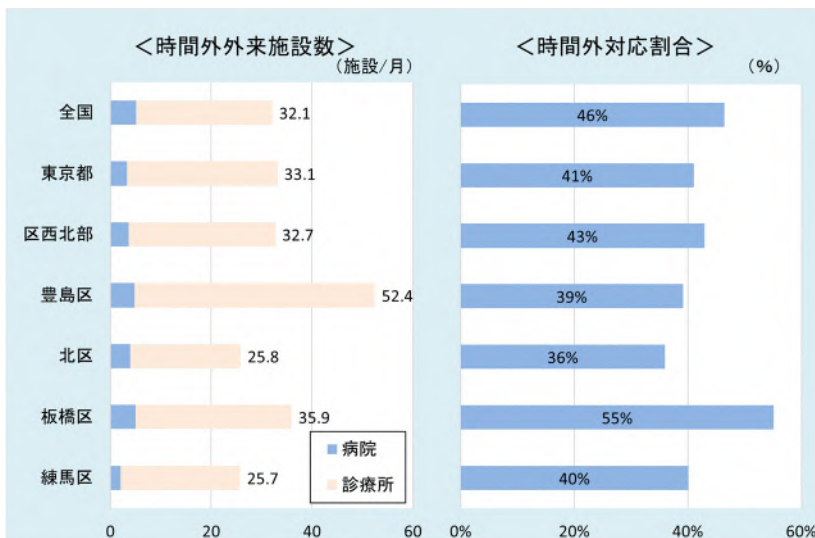
<人口 10 万人当たりの時間外等外来患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）>



○ 区西北部における人口 10 万人当たり時間外等外来患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）は 1,442.6 人/月であり、全国平均を上回る一方、都平均は下回っています。

○ 区別では、板橋区と豊島区が全国及び都平均を上回る一方、北区と練馬区では各平均を下回っています。

<人口 10 万人当たりの時間外等外来施設数（月平均施設数）と時間外対応施設割合>



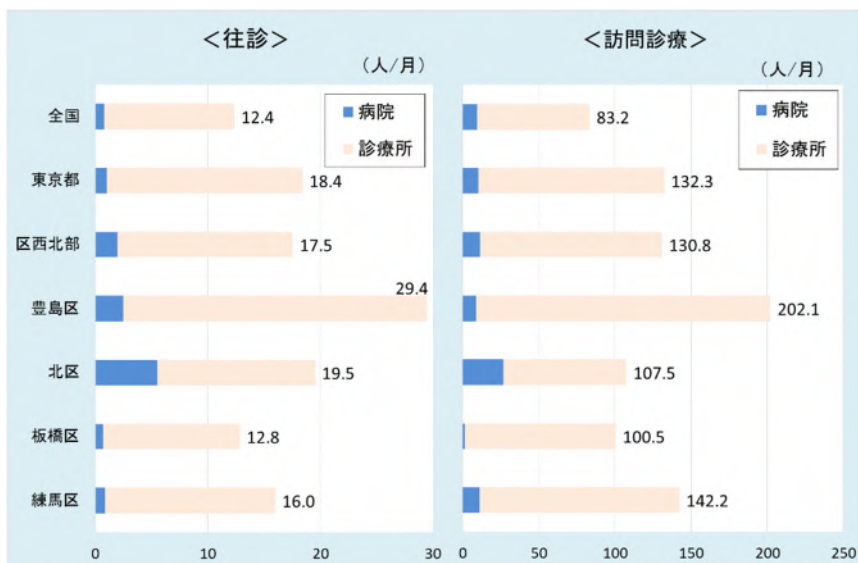
○ 区西北部における人口 10 万人当たりの時間外等外来施設数（月平均施設数）は 32.7 施設であり、全国平均を上回る一方、都平均は下回っています。

○ 区別では、豊島区が 52.4 施設であり、全国及び都平均の約 1.6 倍です。

○ 外来施設のうち時間外外来診療を実施している施設の割合で見ると、区西北部は 43%であり、都平均を上回っています。

イ 在宅医療

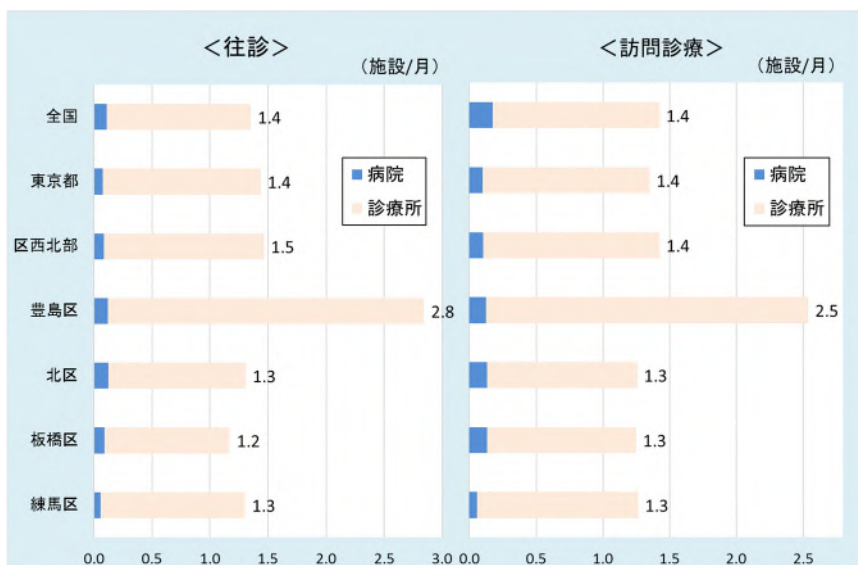
<75 歳以上人口千人当たり往診及び訪問診療患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）>



○ 区西北部における 75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）は、全国平均を上回る一方、都平均は下回っています。

○ 区別では、豊島区が往診、訪問診療の患者延数共に、区西北部の平均を上回っています。また、北区は往診、訪問診療共に病院の患者割合が高くなっています。

<75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問患者診療実施施設数（月平均施設数）>

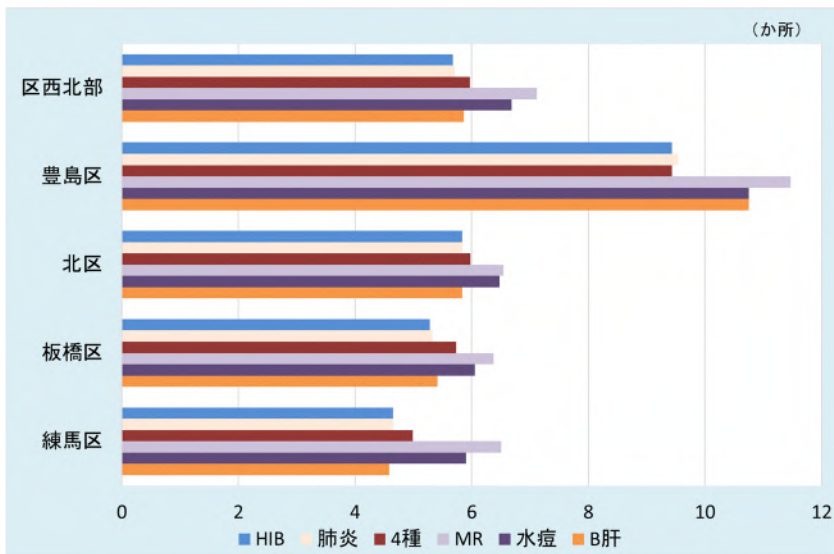


○ 区西北部における 75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療実施施設数（月平均施設数）は全国及び都平均とほぼ同水準です。

○ 区別では、豊島区が往診・訪問診療実施施設数共に他の区を上回っています。

ウ その他の医療機能

<5歳未満人口千人当たりの予防接種提供医療機関数>



○ 5歳未満人口千人当たりの予防接種提供医療機関数は、豊島区が区西北部の各種類別の平均をそれぞれ上回っています。

(※) HIB…ヒブワクチン、肺炎…小児肺炎球菌、4種…DPT-IPV I期(ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ)、MR…麻疹風疹混合、水痘…水ぼうそう、B肝…B型肝炎

(5) 医療機器の状況

① 調整人口当たり台数

	調整人口当たり台数 台/10万人				
	CT	MRI	PET	マンモグラフィー	放射線治療 (体外照射)
全国	11.1	5.5	0.46	3.4	0.91
東京都	9.2	4.8	0.49	3.5	1.43
区西北部	7.6	3.4	0.30	2.5	0.66

② 医療機器の共同利用方針

5種共通 (CT、MRI、PET、マンモグラフィー、放射線治療)

- 連携する医療機関との間で共同利用を進める。
- 保守点検を徹底し、安全管理に努める。
- 検査機器の共同利用に当たっては、画像情報、画像診断情報の共有に努める。

地域医療構想調整会議で出された意見

○地域ごとの状況

- 北区では、JR や南北線の沿線に沿って人口が増えている。王子や赤羽駅などにはマンションが建って若い人口が増えているが、駅近くから 500m も離れると、高齢化が進んでいる。
- 豊島区の患者数が多く見えるが、夜間にやっている診療所があったり、地域の利便性がよかったり、かかりやすいのがあるのではないかな。
- 各地域のアクセシビリティも含めて考える必要がある。

○救急

- 救急の役割分担は以前に比べれば進んできている。
- 区西北部は、以前から二次医療圏内格差があるが、診療所では比較的格差は小さい。ただ、初期救急については板橋に流れており、練馬は少ないというのが実感。
- 救急については、働き方改革との関係を懸念している。大学から医師が来なくなると、病院の救急の質が低下してしまう。

○在宅

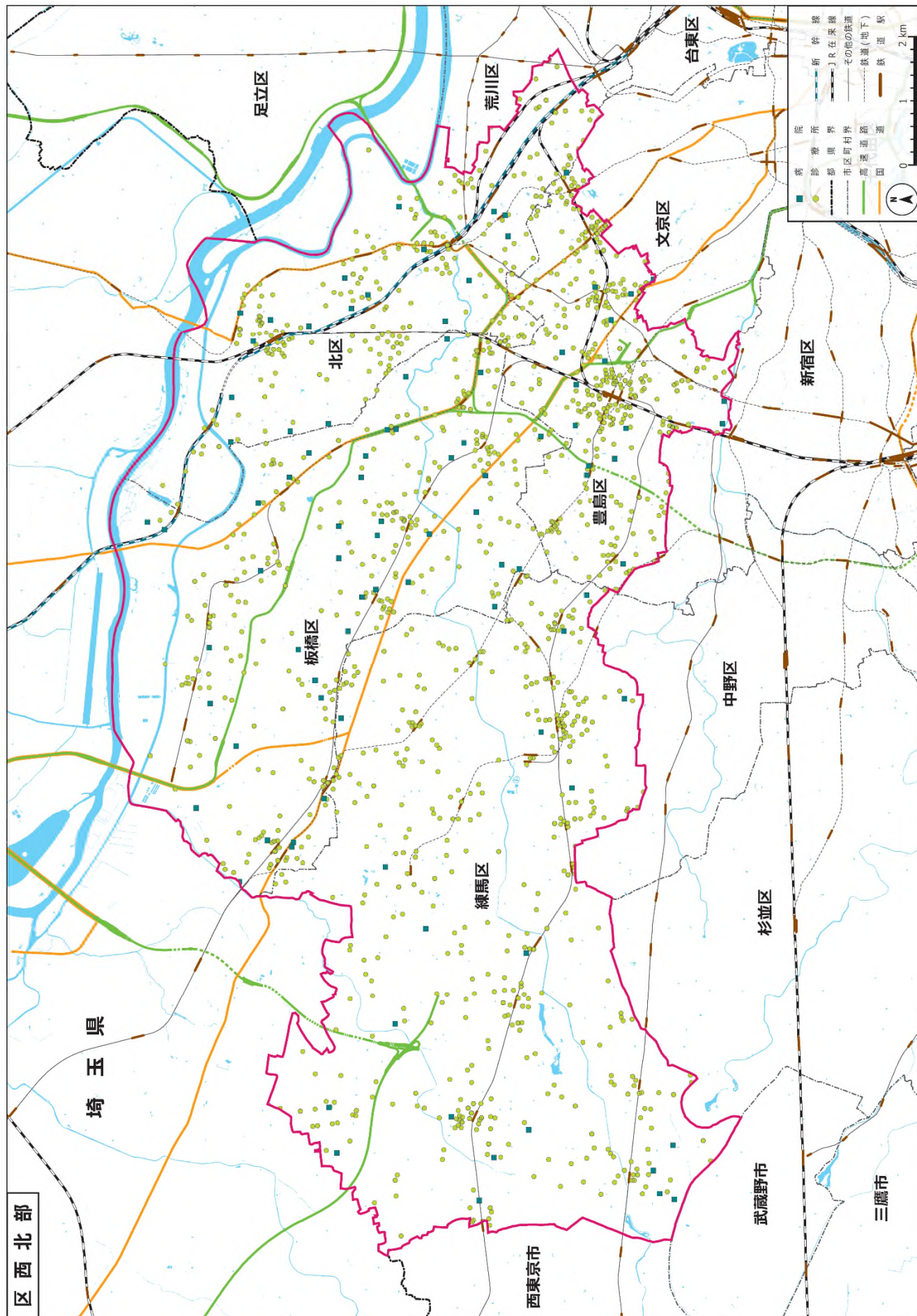
- 住宅地に開業し、在宅医療に参画する若い医師の診療所が増えている。
- 在宅医療を行う特定の医療機関が巨大化し、1 施設で数百の患者を診ていることがある。かかりつけ医がきめ細かく行う個別訪問とは異なり、偏りを感じる。

○総合診療

- 高齢者になると、歩くことが難しく、遠方への通院が難しくなる。高齢者には、生活を支える総合診療が必要

○その他

- 新規開業の医師は、コンサルタントの言うがままで、地域のリサーチが足りないのではないかな。
- 実感としては、昼間の医師は全然足りない。
- 各クリニックの標榜科と実際の専門性の関係が見えない。
- 地域で不足する医療機能は、医療者側から見たものと、住民から見たものは違うのではないかな。



外来医師偏在指標

128.3 (全国第 31 位/全国 335 医療圏中) ⇒ 外来医師多数区域 に該当







国土地理院の数値地図(国土基本情報)、電子地形図(タイル)を使用して作成



4 圏域ごとの状況

(6) 区東北部

(荒川区・足立区・葛飾区)



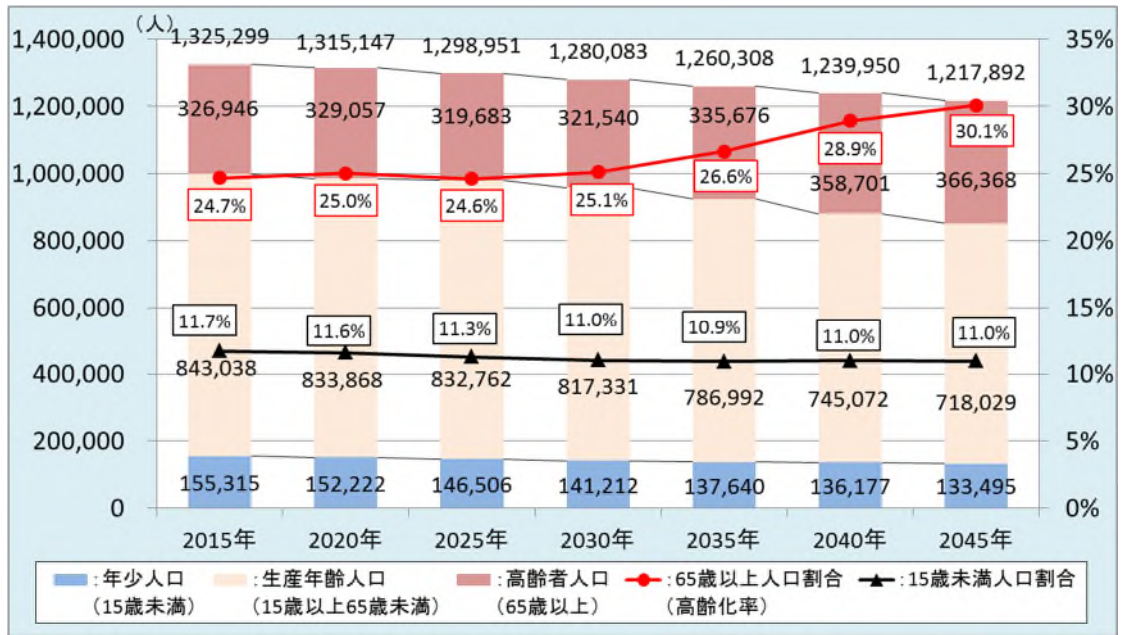
6 区東北部

(1) 人口・面積・人口密度

(人口) 1,351,188 人・(面積) 98.21 km²・(人口密度) 13,758 人/km²

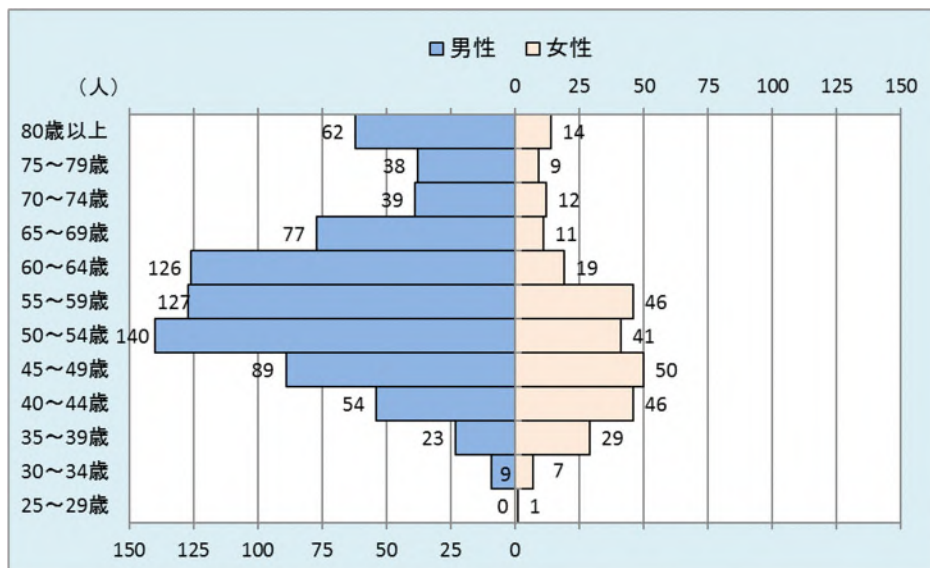
(2) 人口高齢化率の推移

- 区東北部の人口は、減少を続け、2045年には2015年比で約10万人減少する見込です。その一方、高齢者人口は増加を続け、2040年には35万人を超えることが予測されています。
- 高齢化率は上昇を続け、2045年には30%を超えることが予測されています。



(3) 診療所医師の年齢・性構成割合

- 男性医師では50歳以上55歳未満の区分が140人、女性医師では45歳以上50歳未満の区分が50人で、それぞれ最も多くなっています。
- 40歳以上の各区分で、男性医師数が女性医師数を上回っています。

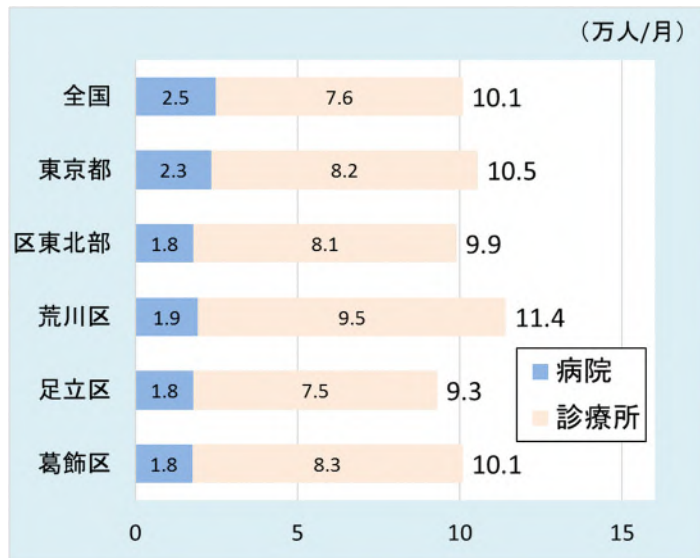


(3) 外来医療の状況

① 外来医師偏在指標

108.0 (全国第95位/全国335医療圏中)

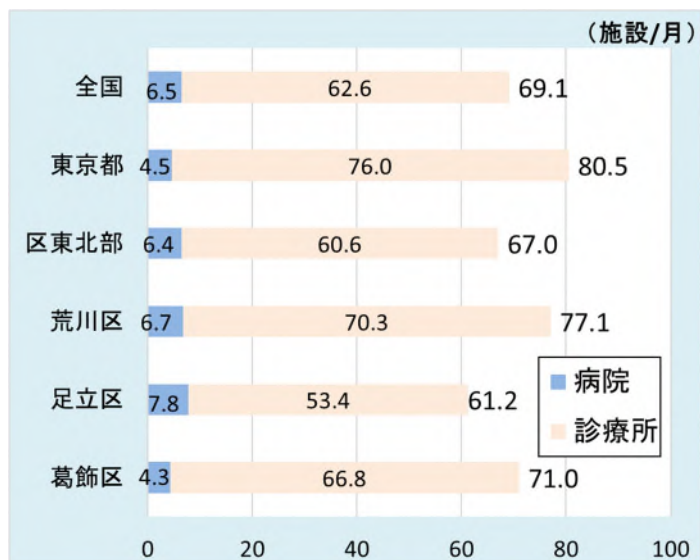
② 人口10万人当たりの外来患者延数(医科レセプトの月平均算定回数)



○ 区東北部における、人口10万人当たりの外来患者延数は9.9万人で、全国や都の平均を下回っています。

○ 区別で見ると、荒川区では全国や都の平均を上回っていますが、葛飾区は全国平均と同水準になっています。

③ 人口10万人当たりの外来施設数(月平均施設数)



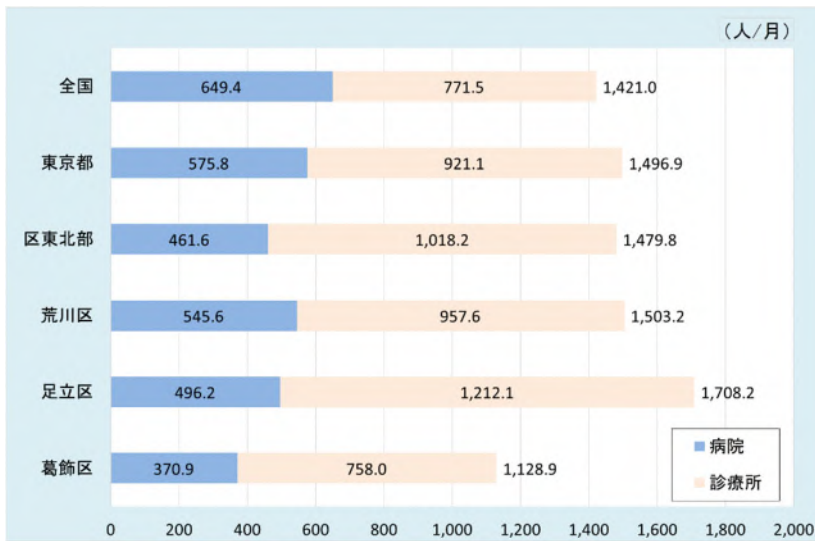
○ 区東北部の人口10万人当たり外来施設数は67.0施設であり、全国や都の平均を下回っています。

○ 区別で見ると、足立区では61.2施設であり、全国や都の平均を下回っています。

④ 外来医療機能別の状況

ア 夜間・休日における初期救急医療

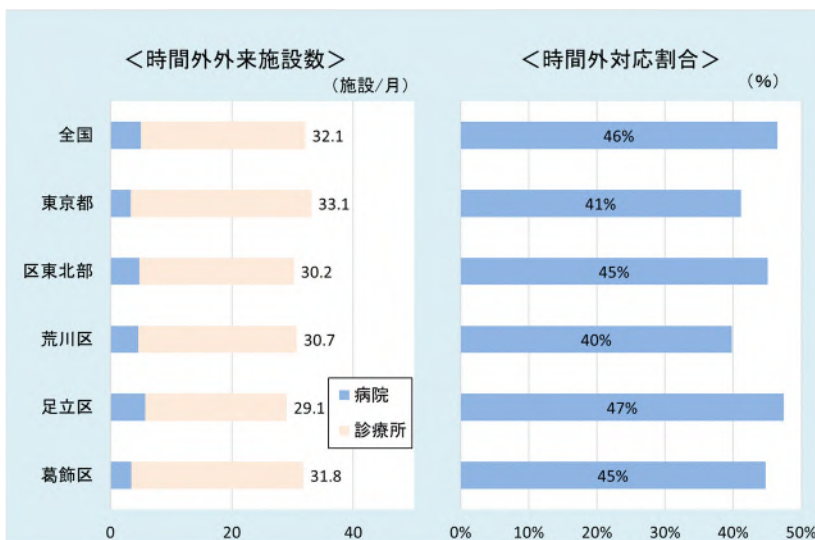
<人口 10 万人当たりの時間外等外来患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）>



○ 区東北部における人口 10 万人当たり時間外等外来患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）は 1,479.8 人/月であり、全国平均を上回る一方、都平均は下回っています。

○ 区別では、足立区の患者延数が 1,708.2 人/月で全国及び都平均を上回る一方、葛飾区は 1,128.9 人/月であり、各平均を下回っています。

<人口 10 万人当たりの時間外等外来施設数（月平均施設数）と時間外対応施設割合>



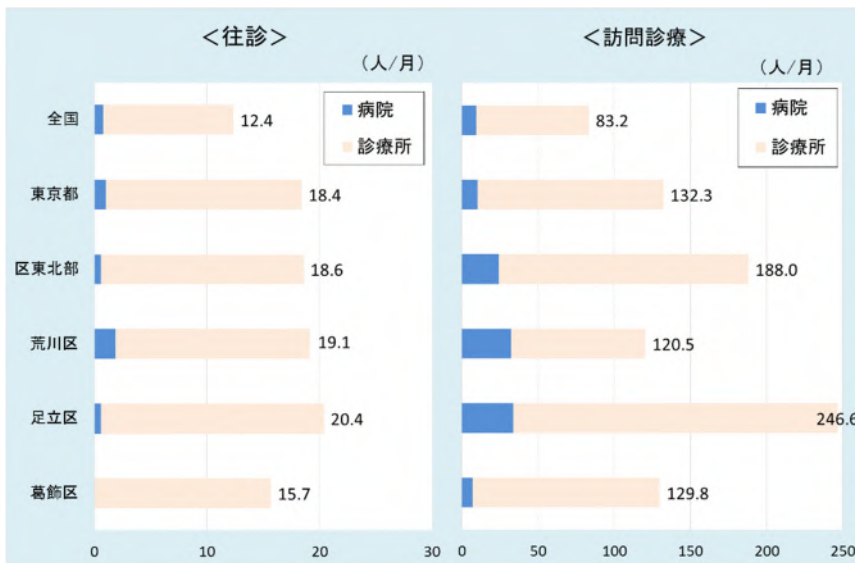
○ 区東北部における人口 10 万人当たりの時間外等外来施設数（月平均施設数）は 30.2 施設であり、全国及び都平均を下回っています。

○ 区別でも、すべての区で全国及び都平均を下回っています。

○ 外来施設のうち時間外外来診療を実施している施設の割合でみると、区東北部は 45%であり、全国平均を下回っているものの、都平均は上回っています。

イ 在宅医療

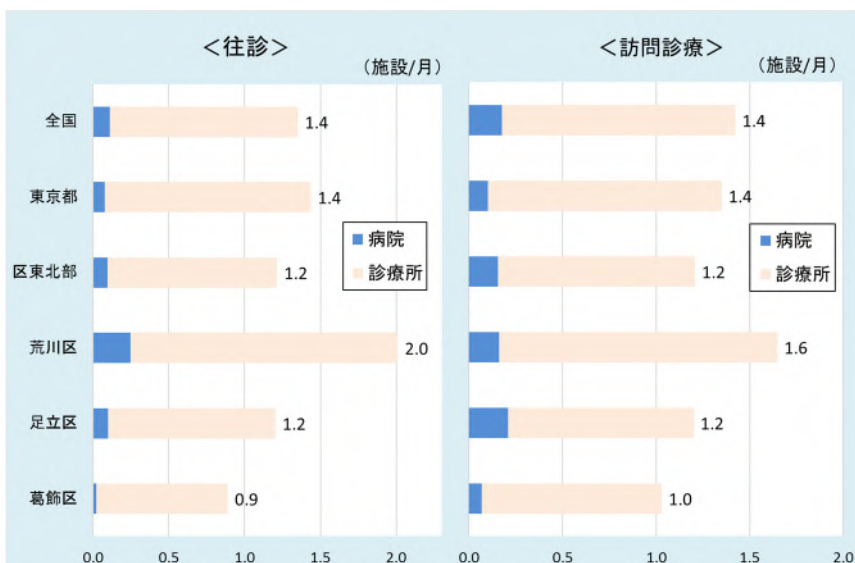
<75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）>



○ 区東北部における 75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）は、全国及び都平均を上回っています。

○ 区別では、足立区の訪問診療の患者延数が 246.6 人/月であり、都平均の約 1.9 倍です。

<75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問患者診療実施施設数（月平均施設数）>

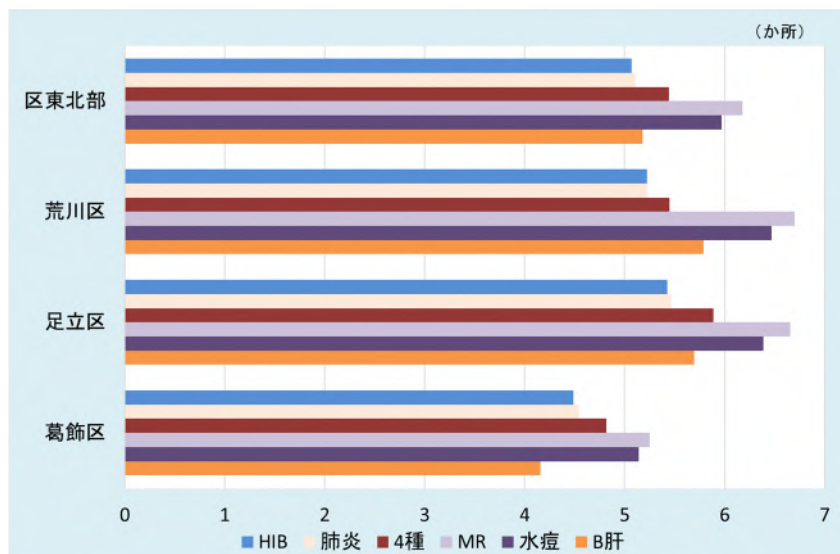


○ 区東北部における 75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療実施施設数（月平均施設数）は、全国及び都平均を下回っています。

○ 区別では、往診・訪問診療実施施設数共に荒川区が区東北部の平均を上回る一方、葛飾区は平均を下回っています。

ウ その他の医療機能

<5歳未満人口千人当たりの予防接種提供医療機関数>



○ 5歳未満人口千人当たりの予防接種提供医療機関数は、荒川区及び足立区が区東北部の各種類別の平均をそれぞれ上回っています。

(※) HIB…ヒブワクチン、肺炎…小児肺炎球菌、4種…DPT-IPV I期(ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ)、MR…麻しん風しん混合、水痘…水ぼうそう、B肝…B型肝炎

(5) 医療機器の状況

① 調整人口当たり台数

	調整人口当たり台数 台/10万人				
	CT	MRI	PET	マンモグラフィー	放射線治療 (体外照射)
全国	11.1	5.5	0.46	3.4	0.91
東京都	9.2	4.8	0.49	3.5	1.43
区東北部	9.9	4.4	0.08	1.9	0.16

② 医療機器の共同利用方針

5種共通 (CT、MRI、PET、マンモグラフィー、放射線治療)

- 連携する医療機関との間で共同利用を進める。
- 保守点検を徹底し、安全管理に努める。
- 検査機器の共同利用に当たっては、画像情報、画像診断情報の共有に努める。

地域医療構想調整会議で出された意見

○公衆衛生

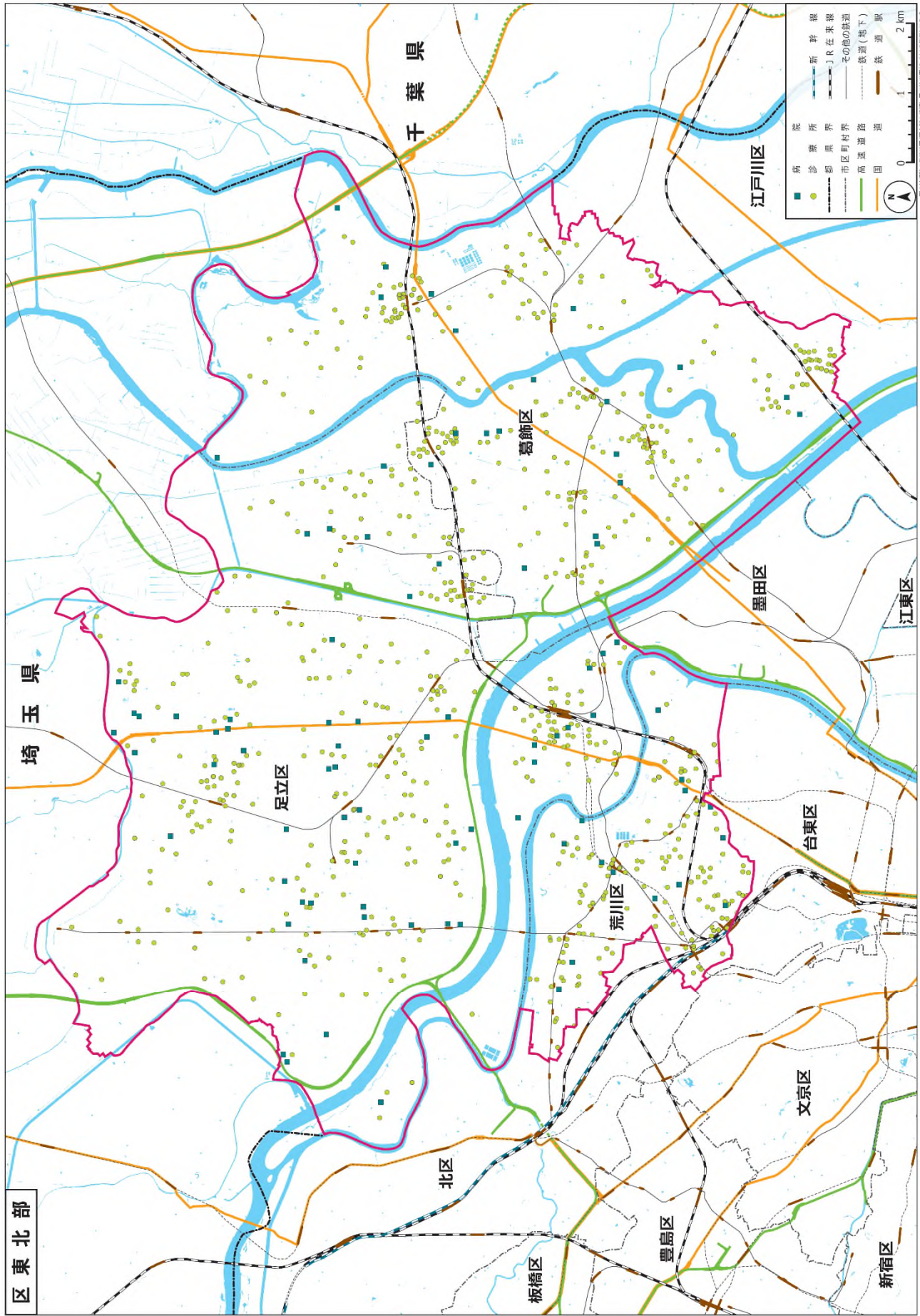
- ・葛飾では、待機児童対策で保育園ができてきていて、園医が足りない。乳幼児健診、3歳児検診へ協力してもらえる医師も少ない。
- ・葛飾では、乳幼児、学童に関する、園医、学校医の不足が常態化している。担い手の医師が高齢化により引退しても、補うことが難しい。新たに開業する医師についても、小児科に関しては増えていない。
- ・公募をしても学校医や産業医に応じてくれる医師が十分ではなく、一人の医師が多くの兼任をしている。医師会が調整を担っているが、調整を行う社会的なシステムが必要

○高齢者

- ・病院の立場から見て、認知症を持った合併症の患者を受けてくれる診療所は少ない。
- ・認知症に加えパーキンソン病患者も増える。神経内科の医師も不足している。
- ・葛飾区では認知症対策をやっているが、高齢者が増えていく中で認知症患者への対応が間に合わない。総合診療機能を有する医師が増えてくればいいが、総合診療に興味のない医師や医師会に入らない医師も多い。

○その他

- ・今後、発達障害に対する支援も求められるのではないか。

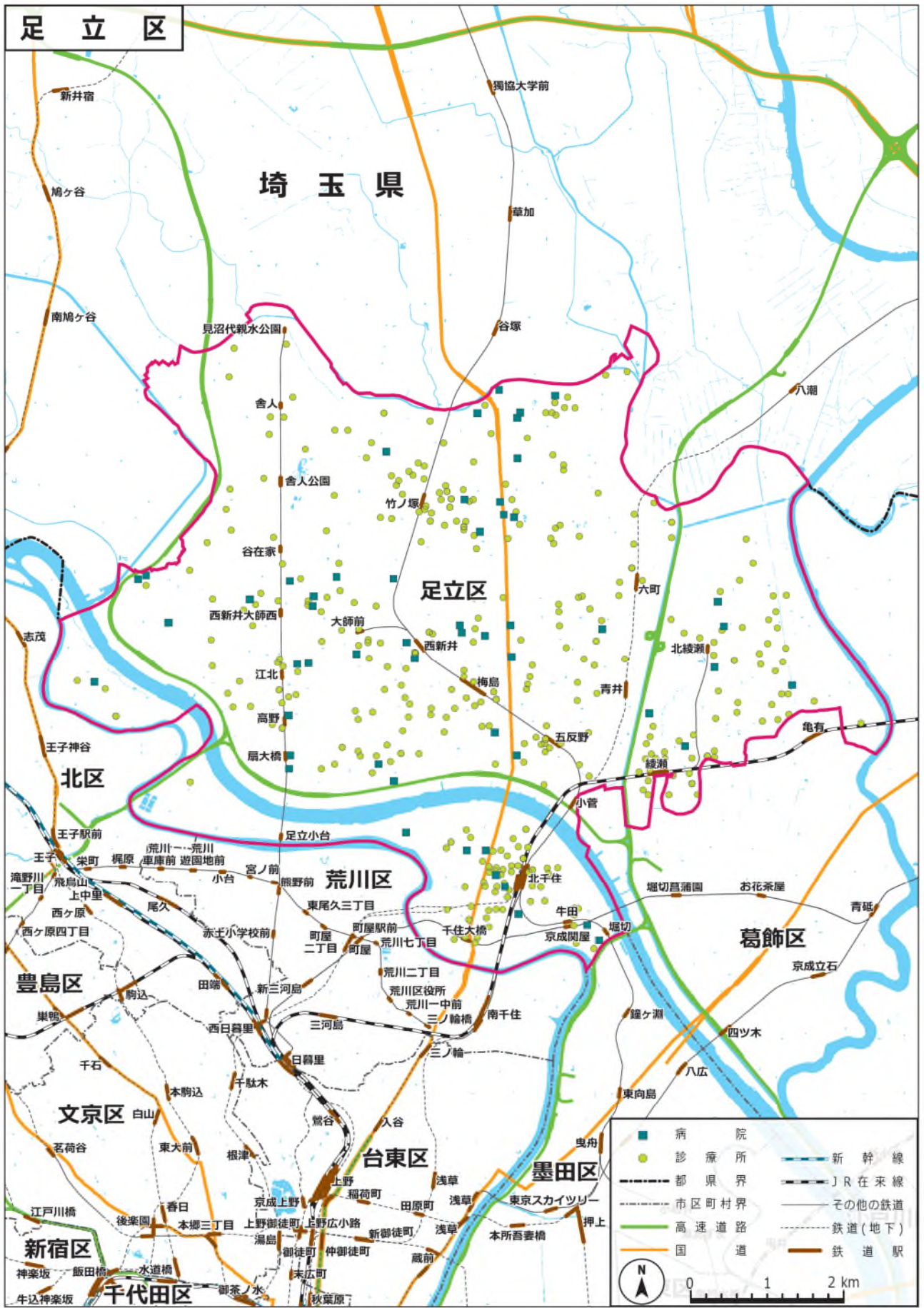


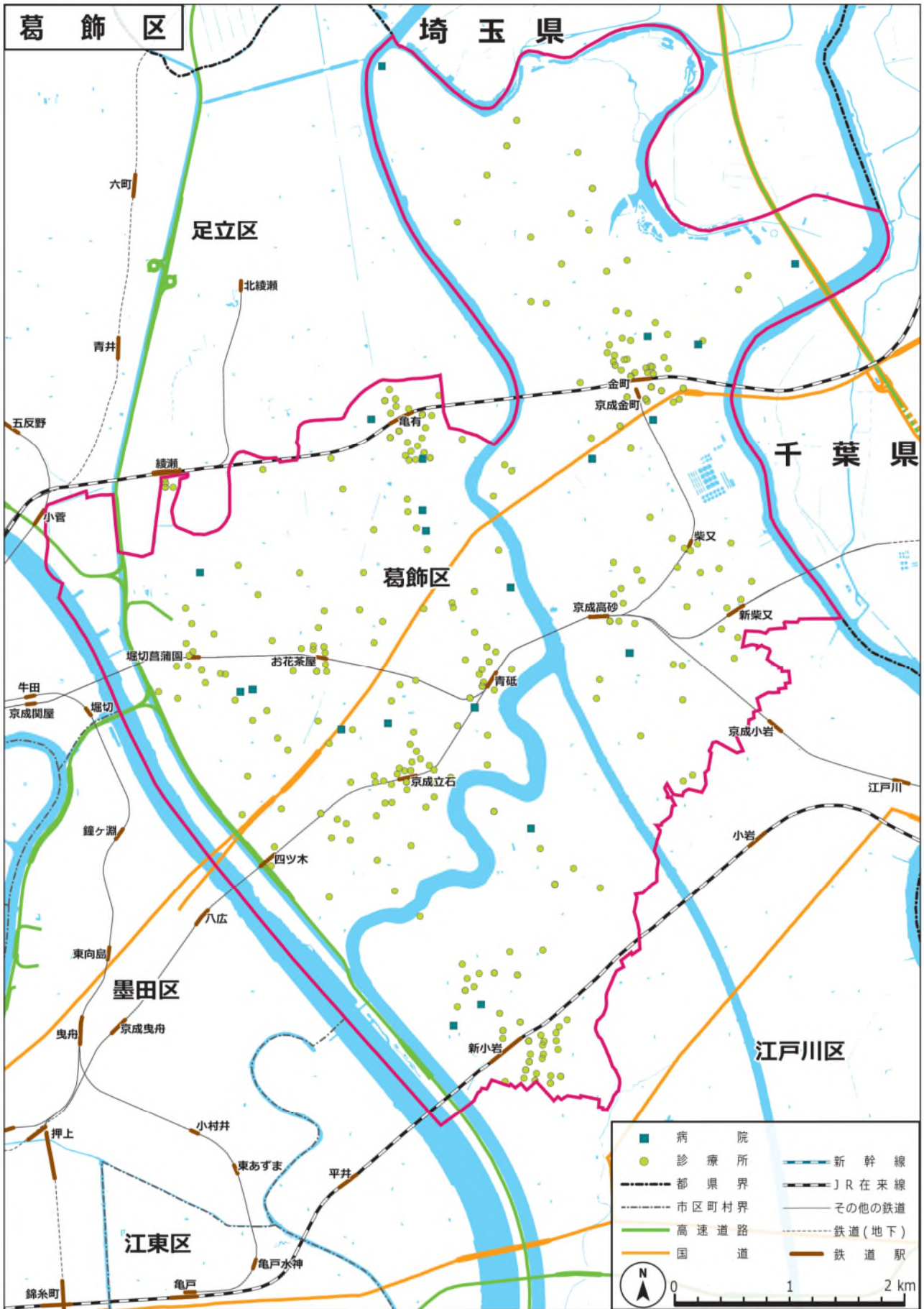
外来医師偏在指標

108.0 (全国第95位/全国335医療圏中) ⇒ 外来医師多数区域に該当



国土地理院の数値地図(国土基本情報)、電子地形図(タイル)を使用して作成

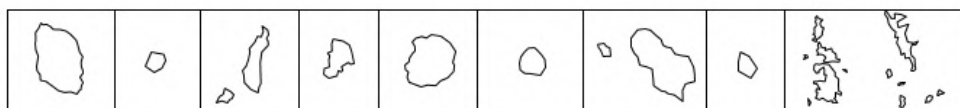




4 圏域ごとの状況

(7) 区東部

(墨田区・江東区・江戸川区)



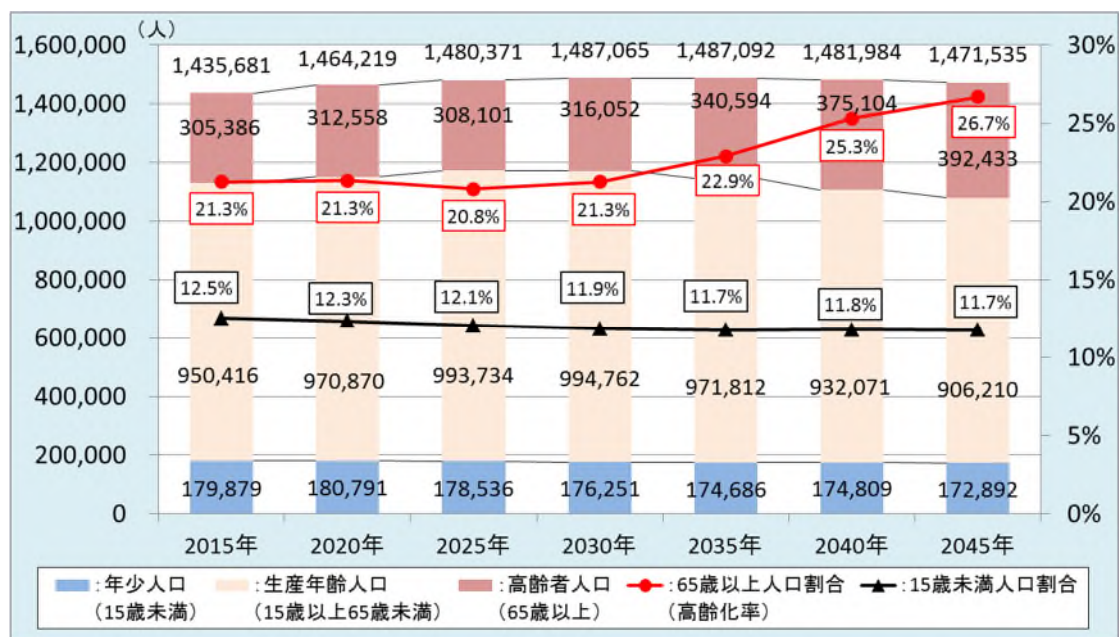
7 区東部

(1) 人口・面積・人口密度

(人口) 1,476,795 人・(面積) 103.83 km²・(人口密度) 14,223 人/km²

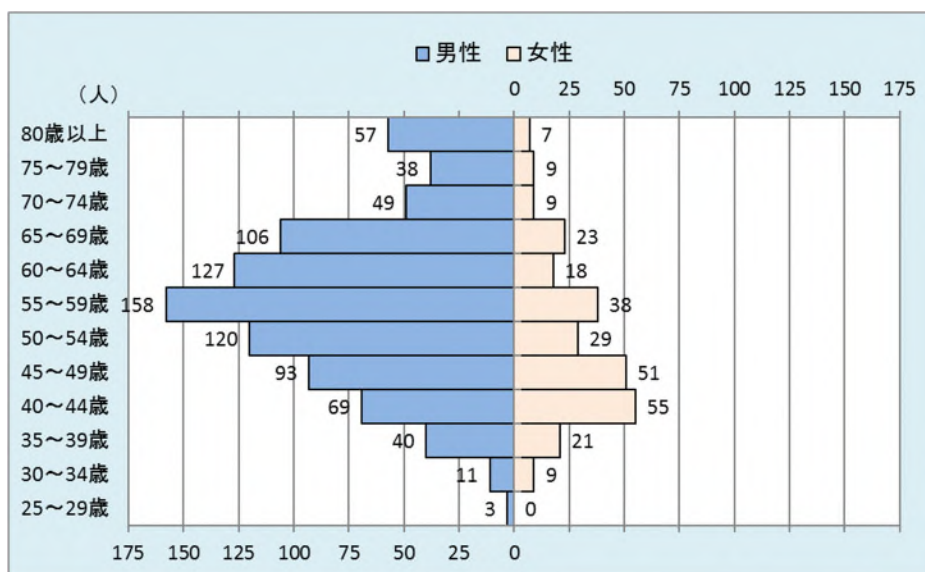
(2) 人口高齢化率の推移

- 区東部の人口は、2030、35年頃にピークを迎え、約149万人に達する見込です。高齢者人口は2030年以降、急速に増加し、2045年には約40万人に達することが予測されています。
- 高齢化率は2025年以降上昇し、2040年には25%を超えることが予測されています。



(3) 診療所医師の年齢・性構成割合

- 男性医師では55歳以上60歳未満の区分が158人、女性医師では40歳以上45歳未満の区分が55人で、それぞれ最も多くなっています。
- 全ての年齢区分で、男性医師数が女性医師数を上回っています。

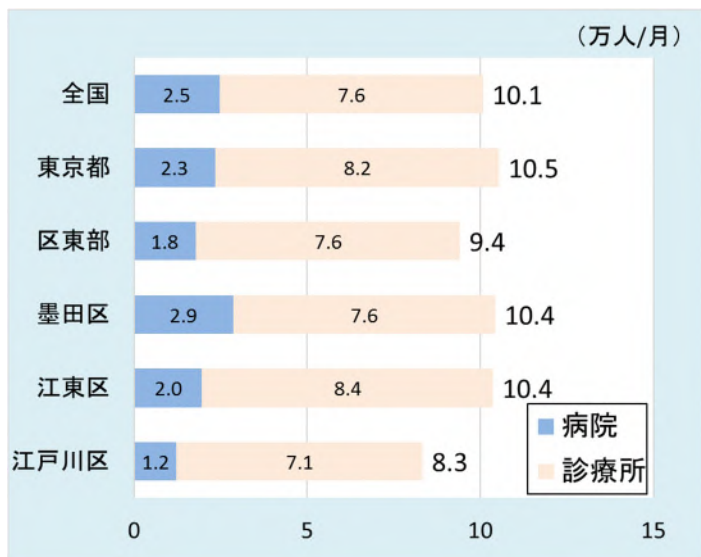


(4) 外来医療の状況

① 外来医師偏在指標

112.9 (全国第 72 位/全国 335 医療圏中)

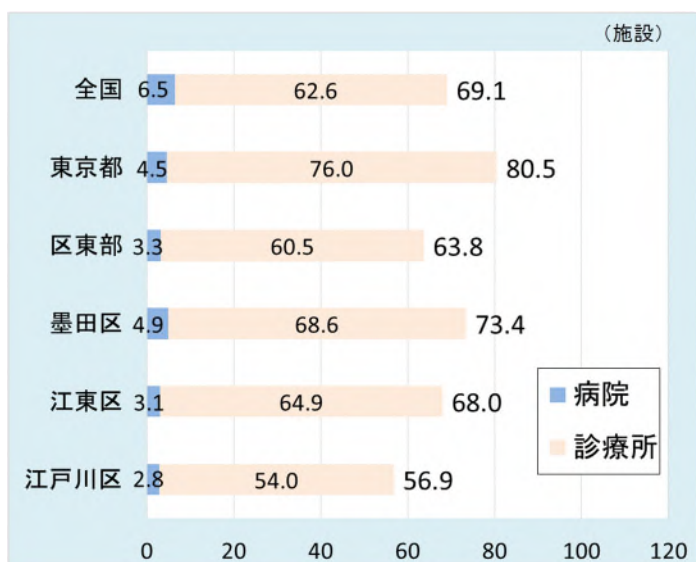
② 人口 10 万人当たりの外来患者延数 (医科レセプトの月平均算定回数)



○ 区東部における、人口 10 万人当たりの外来患者延数は 9.4 万人で、全国や都の平均を下回っています。

○ 区別で見ると、墨田区と江東区は全国や都の平均に近い数値となっていますが、江戸川区では 8.3 施設であり、全国や都の平均を下回っています。

③ 人口 10 万人当たりの外来施設数 (月平均施設数)



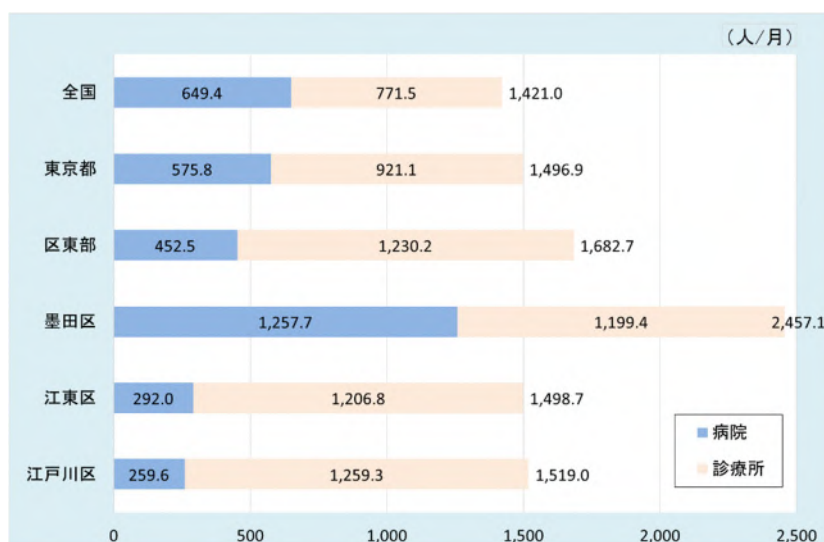
○ 区東部の人口 10 万人当たり外来施設数は 63.8 施設であり、全国や都の平均を下回っています。

○ 区別で見ると、江東区と江戸川区は全国や都の平均を下回っています。特に江戸川区では 56.9 施設であり、都の平均の約 7 割となっています。

④ 外来医療機能別の状況

ア 夜間・休日における初期救急医療

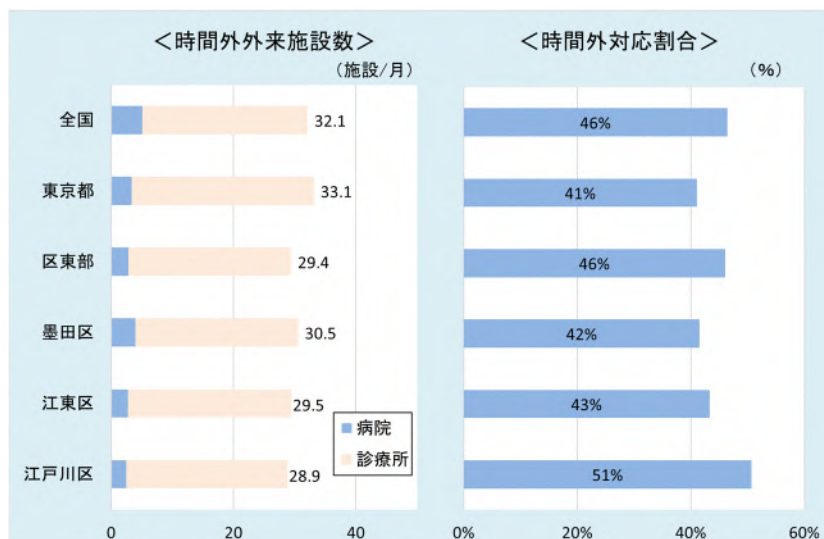
<人口 10 万人当たりの時間外等外来患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）>



○ 区東部における人口 10 万人当たり時間外等外来患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）は 1,682.7 人/月であり、全国及び都平均を上回っています。

○ 区別では、墨田区が 2,457.1 人/月であり、都平均の約 1.6 倍です。また、病院の患者割合が高くなっています。

<人口 10 万人当たりの時間外等外来施設数（月平均施設数）と時間外対応施設割合>



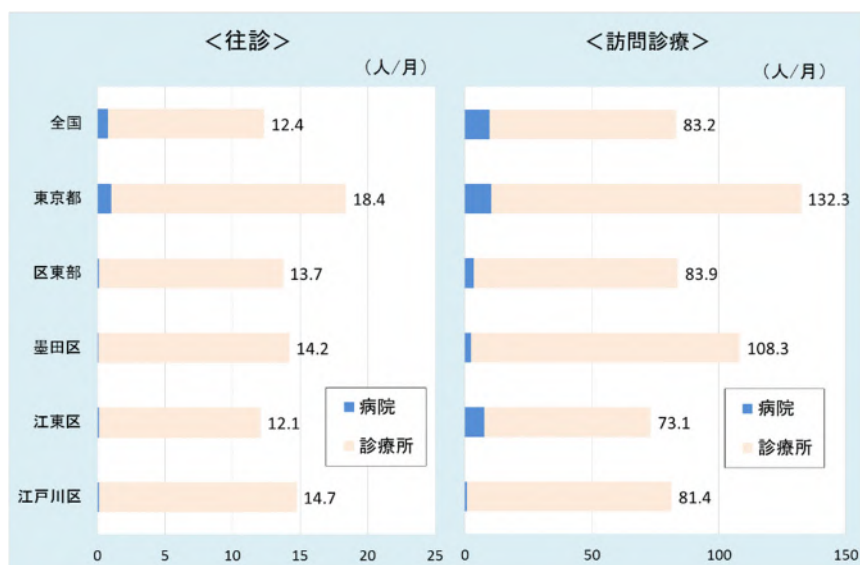
○ 区東部における人口 10 万人当たりの時間外等外来施設数（月平均施設数）は 29.4 施設であり、全国及び都平均を下回っています。

○ 区別でも、すべての区で全国及び都平均を下回っています。

○ 外来施設のうち時間外外来診療を実施している施設の割合で見ると、区東部は 46%であり、都平均を上回っており、全国平均と同水準です。

イ 在宅医療

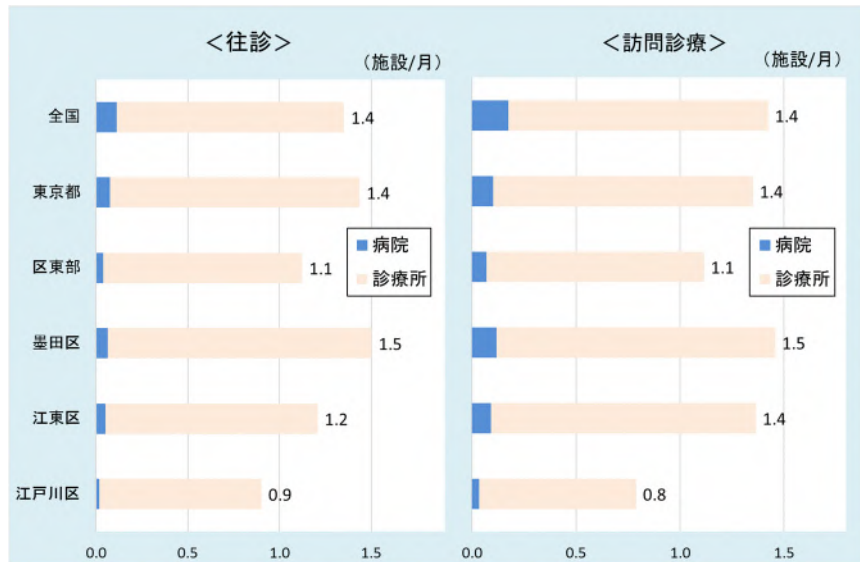
＜75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）＞



○ 区東部における 75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）は、全国平均を上回る一方、都平均は下回っています。

○ 区別では、往診・訪問診療患者延数共に墨田区が区東部の平均を上回る一方、江東区は平均を下回っています。

＜75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問患者診療実施施設数（月平均施設数）＞

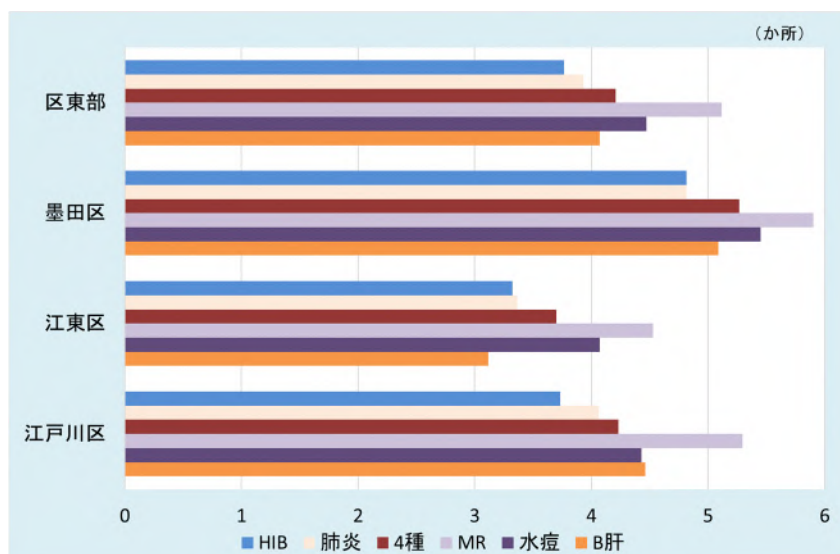


○ 区東部における 75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療実施施設数（月平均施設数）は全国及び都平均を下回っています。

○ 区別では、往診・訪問診療実施施設数共に墨田区が区東部の平均を上回る一方、江戸川区は平均を下回っています。

ウ その他の医療機能

<5歳未満人口千人当たりの予防接種提供医療機関数>



○ 5歳未満人口千人当たりの予防接種提供医療機関数は、墨田区が区東部の各種類別の平均をそれぞれ上回っています。

(※) HIB…ヒブワクチン、肺炎…小児肺炎球菌、4種…DPT-IPV I期(ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ)、MR…麻疹風疹混合、水痘…水ぼうそう、B肝…B型肝炎

(5) 医療機器の状況

① 調整人口当たり台数

	調整人口当たり台数 台/10万人)				
	CT	MRI	PET	マンモグラフィー	放射線治療 (体外照射)
全国	11.1	5.5	0.46	3.4	0.91
東京都	9.2	4.8	0.49	3.5	1.43
区東部	6.9	3.6	0.55	2.2	0.80

② 医療機器の共同利用方針

5種共通 (CT、MRI、PET、マンモグラフィー、放射線治療)

- 連携する医療機関との間で共同利用を進める。
- 保守点検を徹底し、安全管理に努める。
- 検査機器の共同利用に当たっては、画像情報、画像診断情報の共有に努める。

地域医療構想調整会議で出された意見

○不足する外来医療機能

- ・病院側の意見としては、耳鼻科、皮膚科、眼科、泌尿器科、呼吸器科内科の診療を行う診療所は不足している。

○総合診療

- ・総合診療を行うことができ、在宅医療に強い診療所の医師が増えると地域にとって非常にありがたい。

○逆紹介

- ・高齢者で複数の疾患を抱えた患者が多く、逆紹介しようとする则複数のクリニックに通う必要が出ることから、患者が病院に止まることが多くなる。

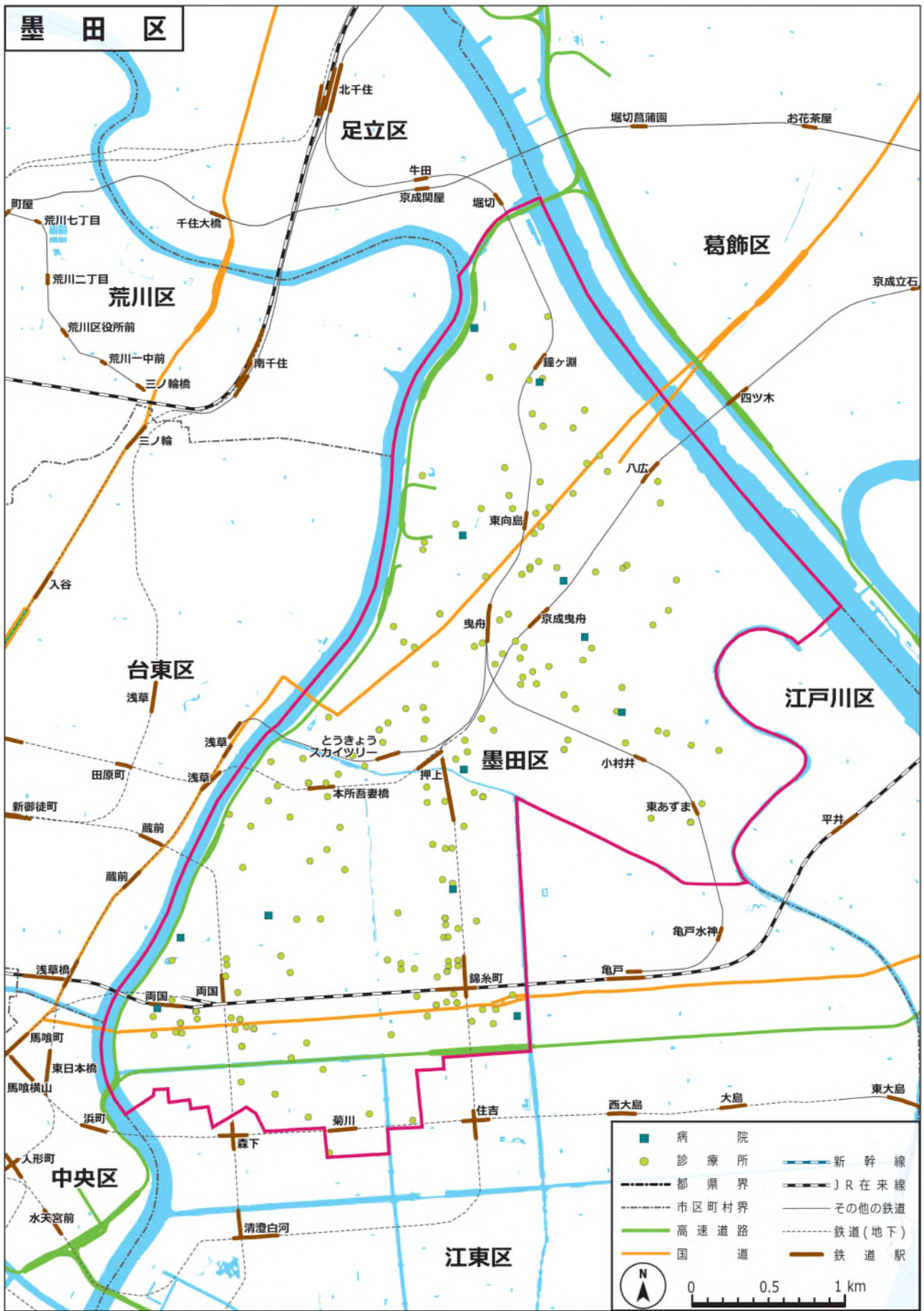
○診療科別

- ・診療科別や各診療所の専門分野を基にした分析が必要ではないか。



外来医師偏在指標

112.9 (全国第72位/全国335医療圏中) ⇒ 外来医師多数区域に該当



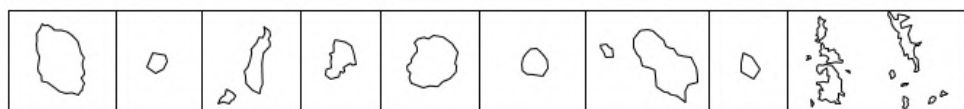




4 圏域ごとの状況

(8) 西多摩

(青梅市・福生市・羽村市・あきる野市・瑞穂町・日の出町・檜原村・奥多摩町)



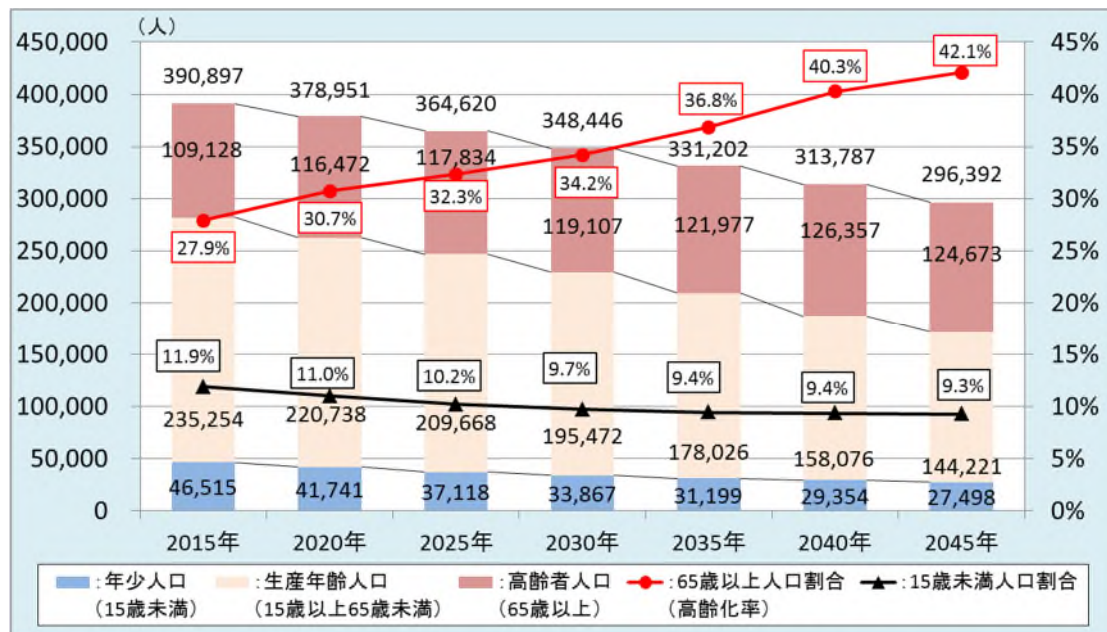
8 西多摩

(1) 人口・面積・人口密度

(人口) 384,930 人・(面積) 572.70 km²・(人口密度) 672 人/km²

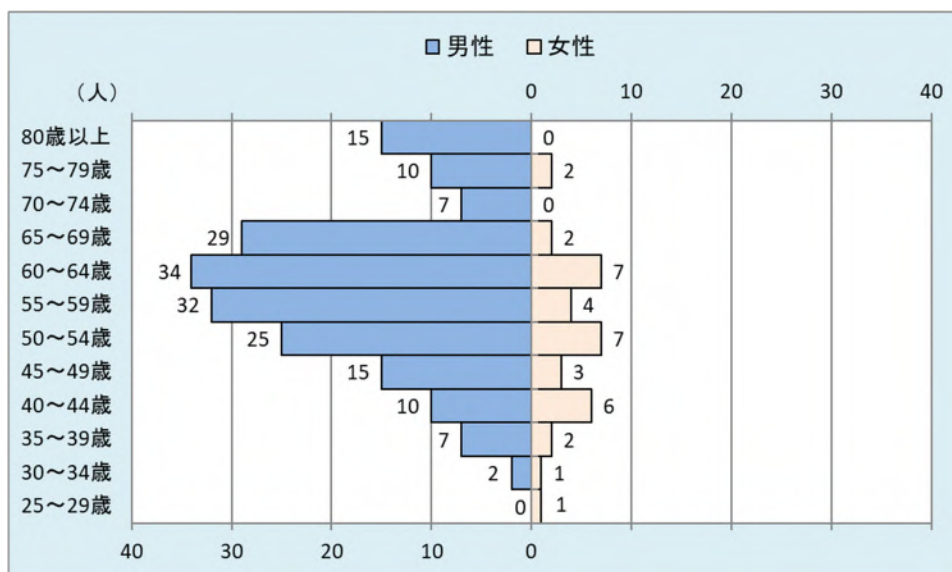
(2) 人口高齢化率の推移

- 西多摩の人口は、減少を続け、2045 年には 30 万人を切る見込です。一方、高齢者人口は 2040 年まで増加を続け、その後減少に転じることが予測されています。
- 高齢化率は上昇を続け、2020 年に 30%、2040 年に 40%を超える見込です。反対に、15 歳未満人口割合は、減少し続けることが予測されています。



(3) 診療所医師の年齢・性構成割合

- 男性医師では 60 歳以上 65 歳未満の区分が 34 人、女性医師では 50 歳以上 55 歳未満と 60 歳以上 65 歳未満の区分が 7 人で、それぞれ最も多くなっています。
- 30 歳以上の各区分で、男性医師数が女性医師数を上回っています。

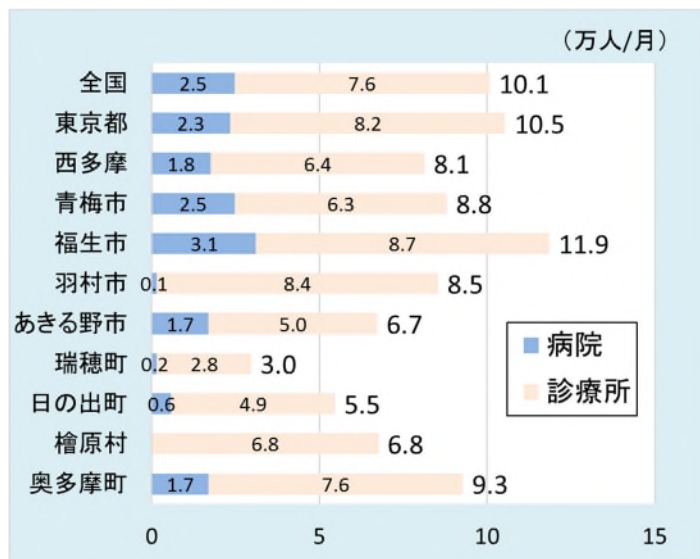


(4) 外来医療の状況

① 外来医師偏在指標

80.6 (全国第 280 位/全国 335 医療圏中)

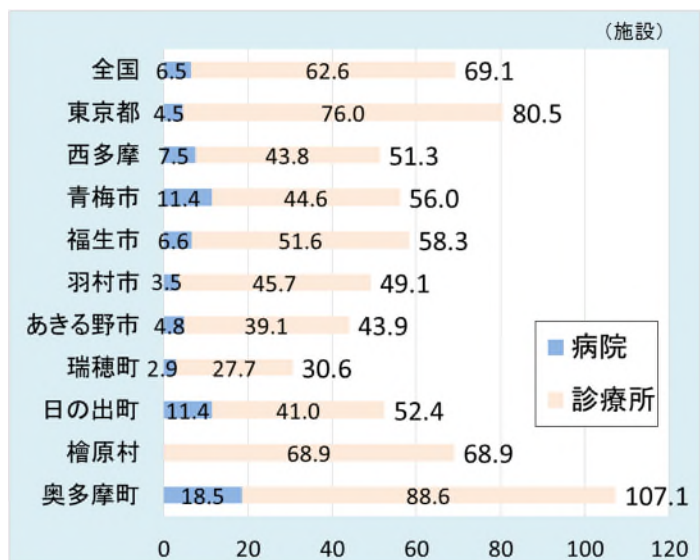
② 人口 10 万人当たりの外来患者延数 (医科レセプトの月平均算定回数)



○ 西多摩における、人口 10 万人当たりの外来患者延数は 8.1 万人で、全国や都の平均を下回っています。

○ 自治体別で見ると、福生市は全国や都の平均を上回っていますが、他の自治体は全て全国や都の平均を下回っています。特に日の出町は全国や都の約 5 割、瑞穂町は約 3 割となっています。

③ 人口 10 万人当たりの外来施設数 (月平均施設数)



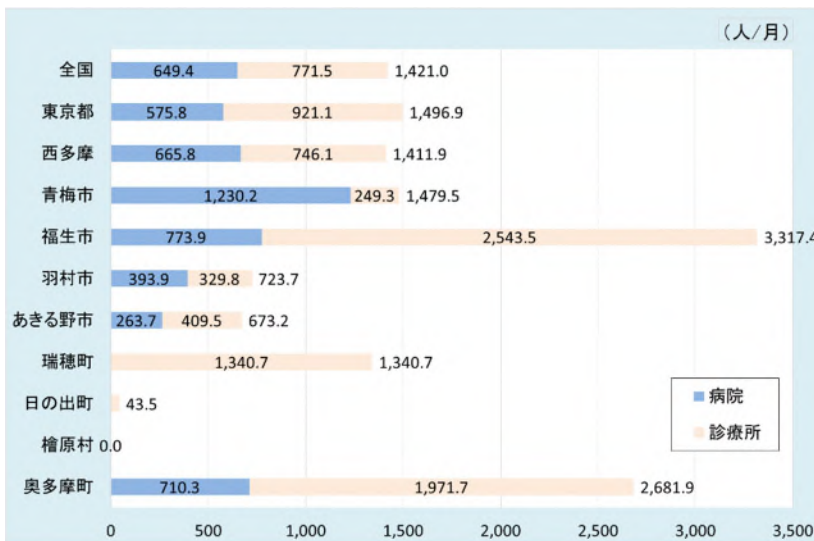
○ 西多摩の人口 10 万人当たり外来施設数は 51.3 施設であり、全国や都の平均を下回っています。

○ 自治体別で見ると、奥多摩町では全国や都の平均を上回っていますが、他の自治体は全て全国や都の平均を下回っています。特に、瑞穂町では、全国や都の平均の約 4 割となっています。

④ 外来医療機能別の状況

ア 夜間・休日における初期救急医療

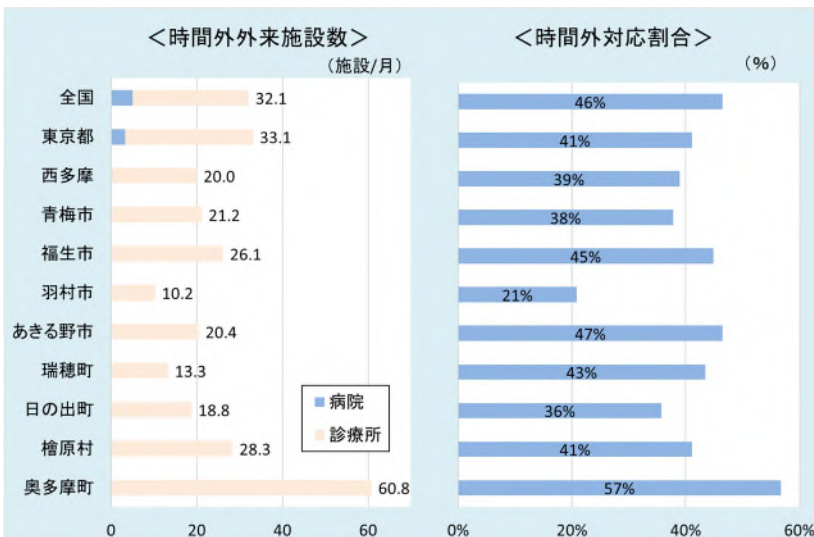
<人口 10 万人当たりの時間外等外来患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）>



○ 西多摩における人口 10 万人当たり時間外等外来患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）は 1,411.9 人/月であり、全国及び都平均とほぼ同水準です。

○ 自治体別では、福生市の患者延数が 3,317.4 人/月であり、都平均の約 2.2 倍、奥多摩町は 2,681.9 人/月であり、都平均の約 1.8 倍です。

<人口 10 万人当たりの時間外等外来施設数（月平均施設数）と時間外対応施設割合>



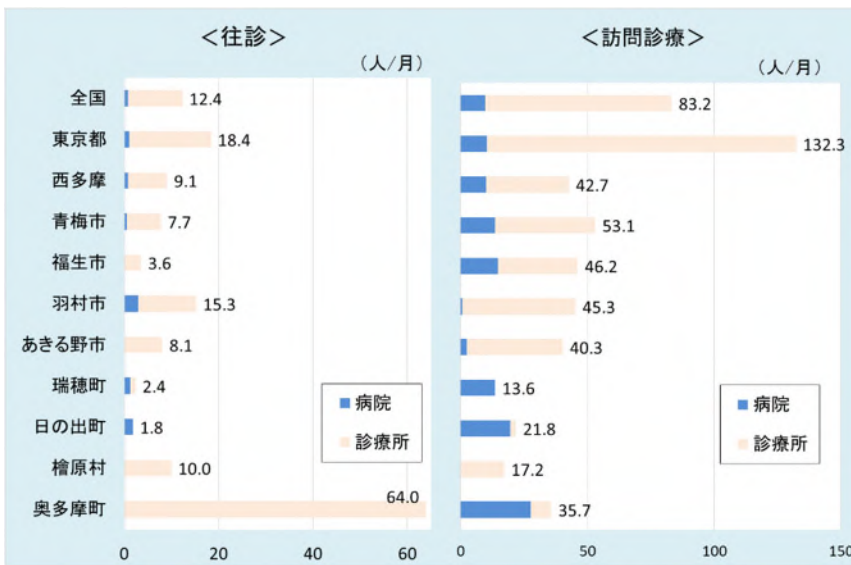
○ 西多摩における人口 10 万人当たりの時間外等外来施設数（月平均施設数）は 20.0 施設であり、全国及び都平均を下回っています。

○ 自治体別では、奥多摩町が 60.8 施設で都平均の約 1.8 倍です。その他の自治体では全国及び都平均を下回っています。

○ 外来施設のうち時間外外来診療を実施している施設の割合でみると、西多摩は 39%であり、全国及び都平均を下回っています。

イ 在宅医療

<75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）>

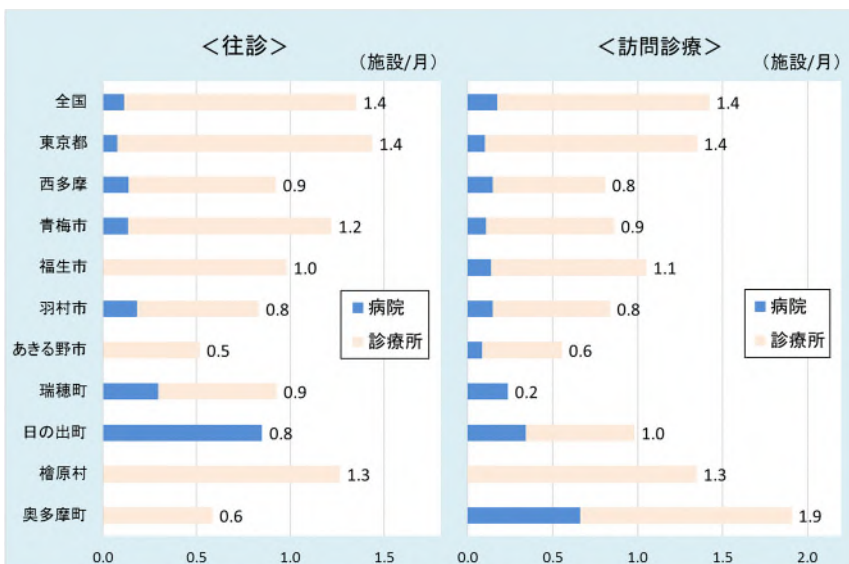


○ 西多摩における 75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）は、全国及び都平均を下回っています。

○ 自治体別では、奥多摩町の往診患者延数は 64.0 人/月であり、都平均の約 3.5 倍です。

また、訪問診療患者のうち、瑞穂町、日の出町及び奥多摩町では病院患者の割合が高くなっています。

<75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問患者診療実施施設数（月平均施設数）>

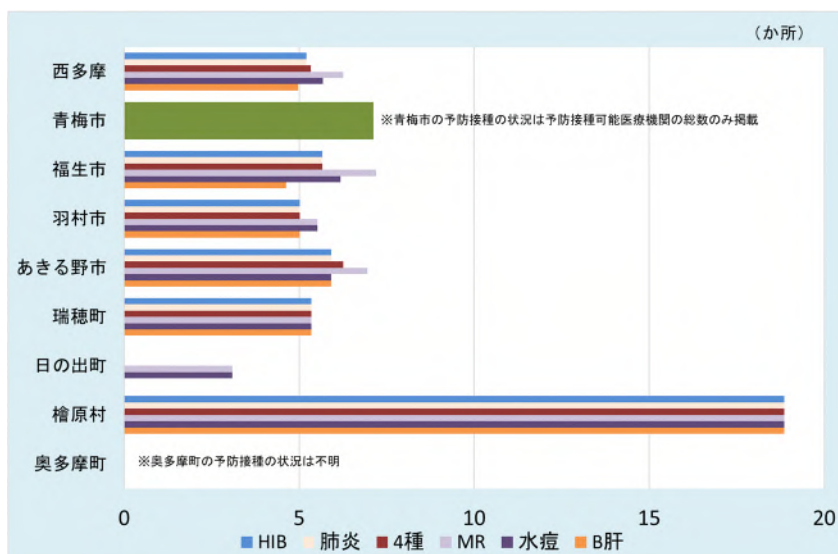


○ 西多摩における 75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療実施施設数（月平均施設数）は、全国及び都平均を下回っています。

○ 自治体別では、奥多摩町の訪問診療実施施設数は、全国及び都平均を上回っています。

ウ その他の医療機能

<5歳未満人口千人当たりの予防接種提供医療機関数>



○ 5歳未満人口千人当たりの予防接種提供医療機関数は、檜原村が多い傾向にあります。

(※) HIB…ヒブワクチン、肺炎…小児肺炎球菌、4種…DPT-IPV I期(ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ)、MR…麻しん風しん混合、水痘…水ぼうそう、B肝…B型肝炎

(5) 医療機器の状況

① 調整人口当たり台数

	調整人口当たり台数 台/10万人)				
	CT	MRI	PET	マンモグラフィー	放射線治療 (体外照射)
全国	11.1	5.5	0.46	3.4	0.91
東京都	9.2	4.8	0.49	3.5	1.43
西多摩	8.8	2.0	0.49	2.4	0.74

② 医療機器の共同利用方針

5種共通 (CT、MRI、PET、マンモグラフィー、放射線治療)

- 連携する医療機関との間で共同利用を進める。
- 保守点検を徹底し、安全管理に努める。
- 検査機器の共同利用に当たっては、画像情報、画像診断情報の共有に努める。

地域医療構想調整会議で出された意見

○不足する外来医療機能

- ・西多摩は外来医師が足りないという前提を踏まえて考える必要がある。
- ・西多摩医師会の意見としては、眼科、耳鼻科、皮膚科は不足しており、特に学校医でそうした役割を果たすのが難しい状況といえる。
- ・かかりつけ医として、休日夜間診療や在宅もこなしてくれて、中小企業の産業医、学校医、予防接種をできる医師が増えてほしい。
- ・病院の立場では、全体として診療所の医療機能が足りないが、特に眼科、耳鼻科、皮膚科、精神科の外来では逆紹介をしたいが、進まない印象
- ・西多摩では全ての診療科が不足している。
- ・通いの医師が多く、災害時にすぐ救護所の立ち上げできるのは、全体の2割5分か3割。それでも問題は無いが、骨を埋めて全ての機能をやってくれる医師が増えてほしい。

○精神科

- ・精神科のクリニックが都内の他の地域より少ない。新規では2、3か月待つことになる。周産期の妊産婦のメンタルヘルスは、地域の保健師が下支えしているが、精神科の医師と連携して進めることが、難しい状況

○小児科

- ・人口は減って分娩数も減っているが、手間がかかる患者は増えており、小児科医の負担は増えている。

○歯科

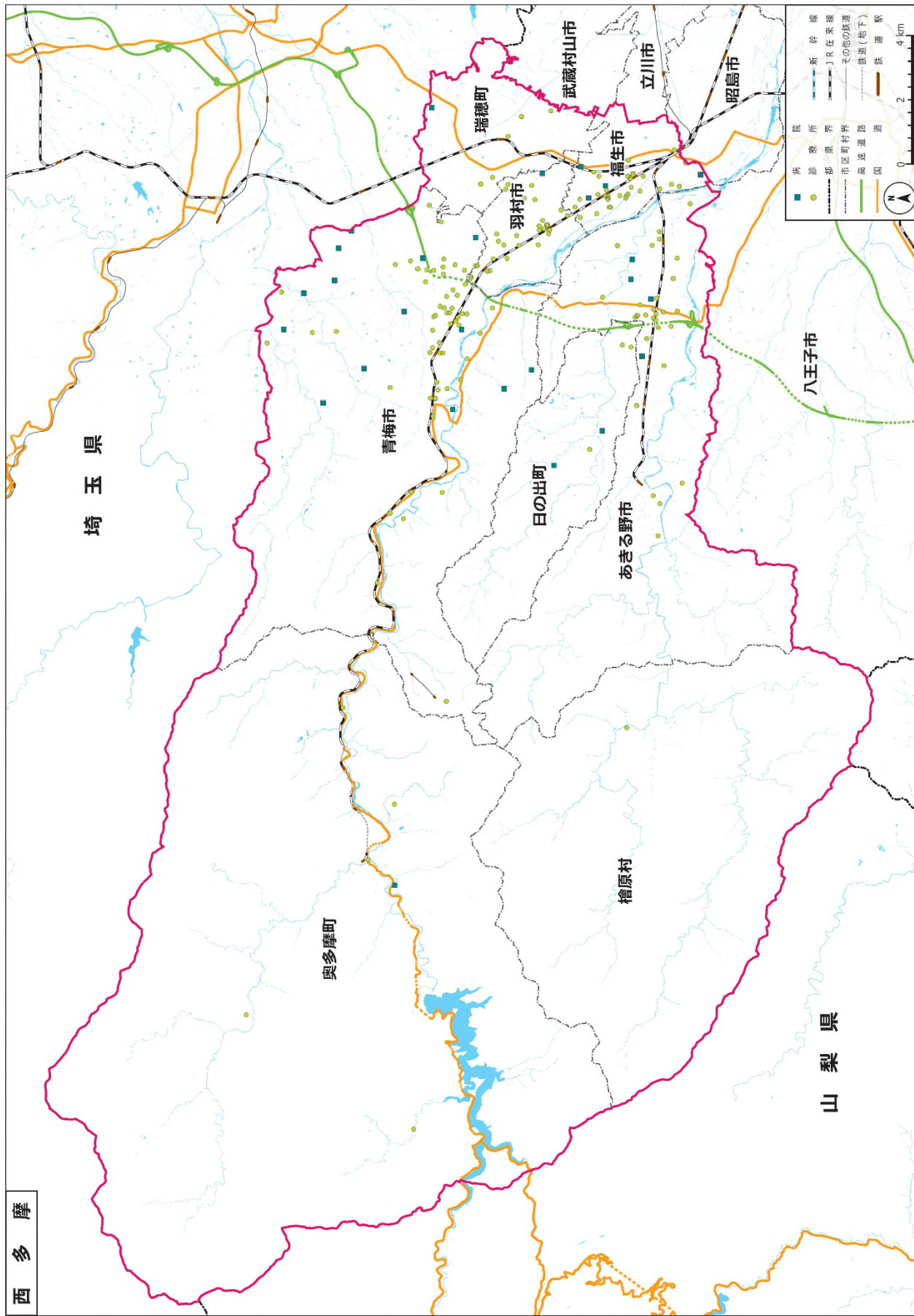
- ・西多摩の中でも、歯科は比較的東側の地域に偏在している。奥多摩では、歯科検診ができなくなっているところもある。

○病院

- ・無暗に診療所を開業するより、病院にとどまってほしいというのも本音
- ・病院の外来医療機能についても検討を深めてほしい。

○その他

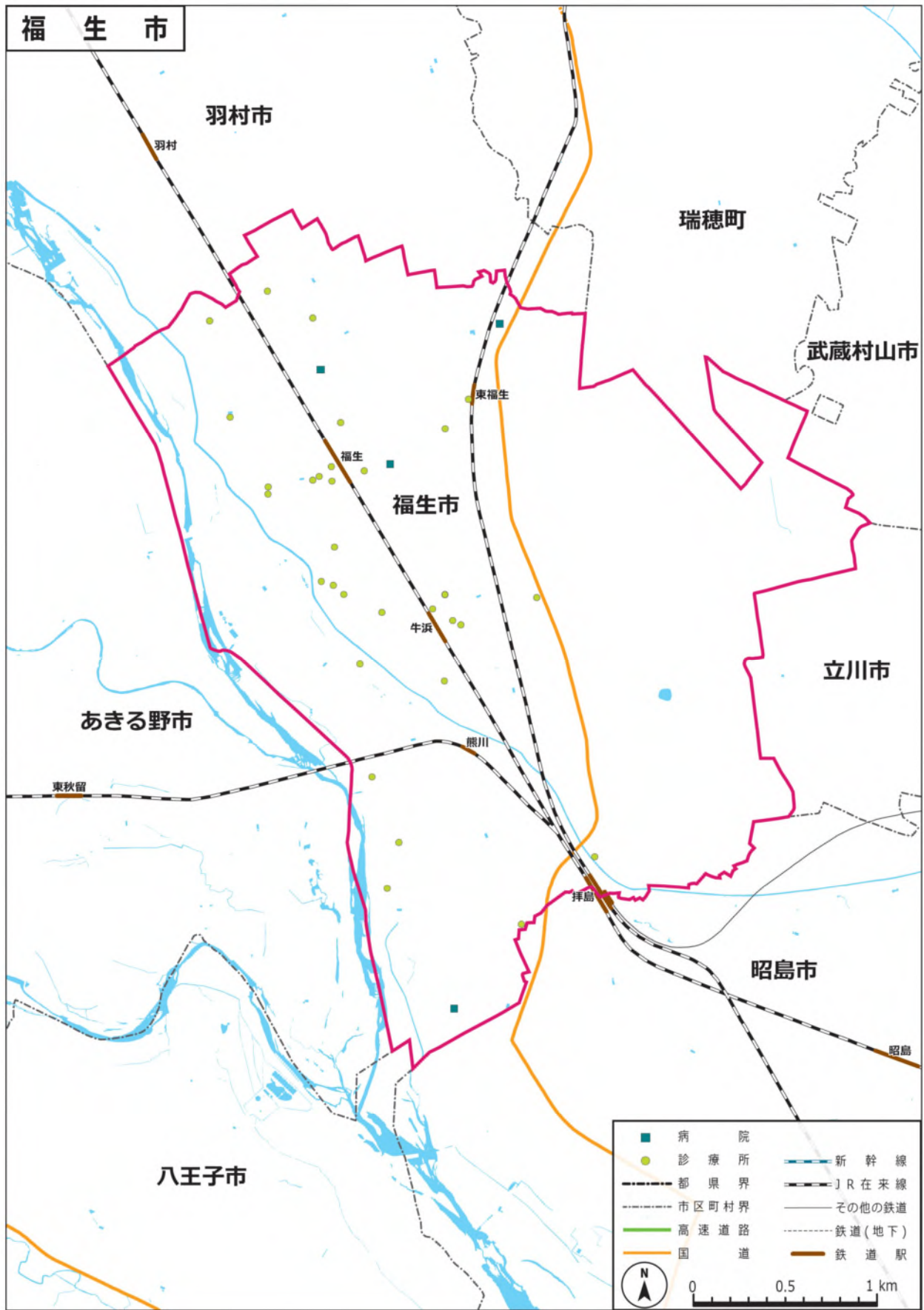
- ・西多摩には、多くの特別養護老人ホームがあるが、入所者の多くは都心部の住民

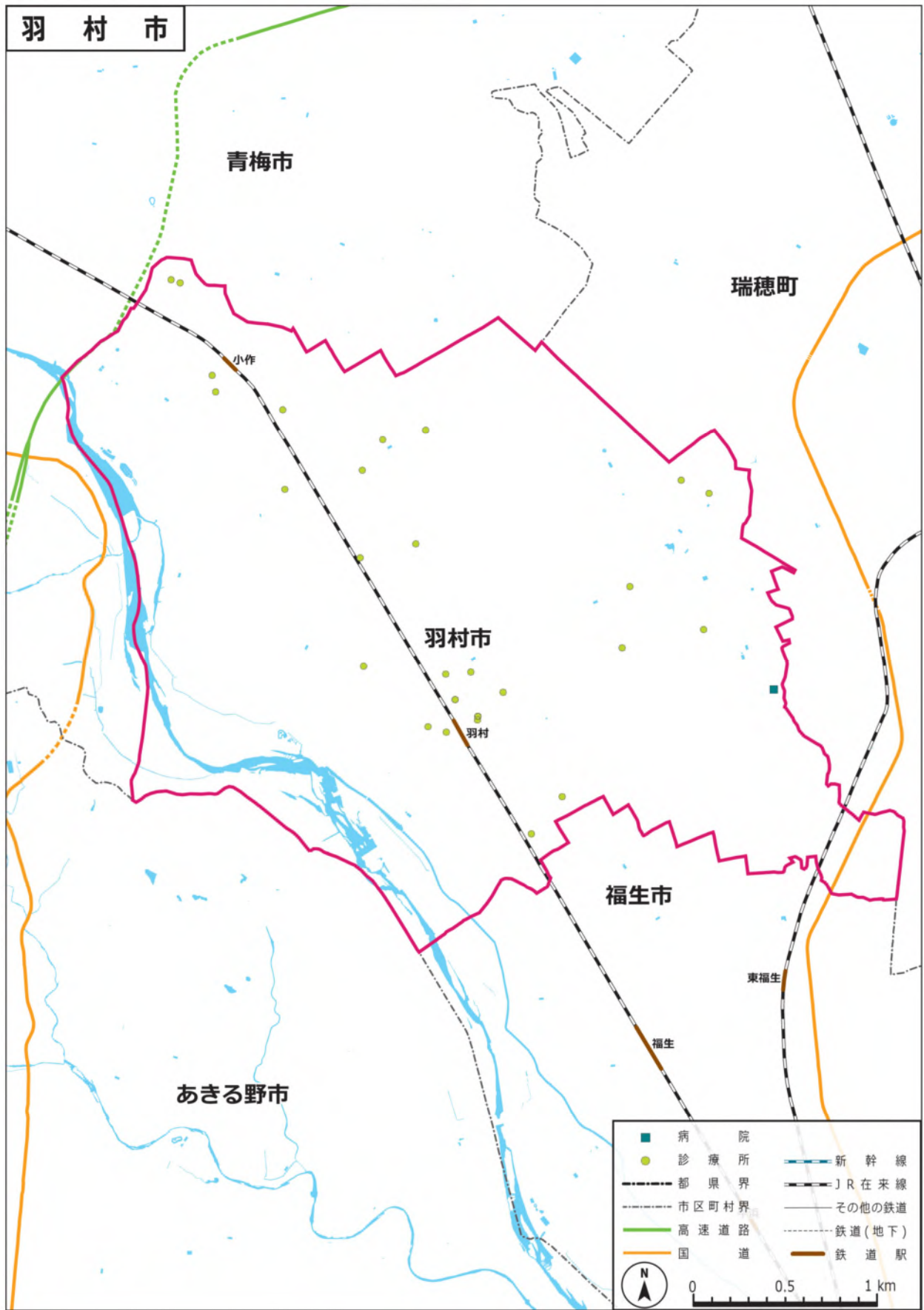


外来医師偏在指標

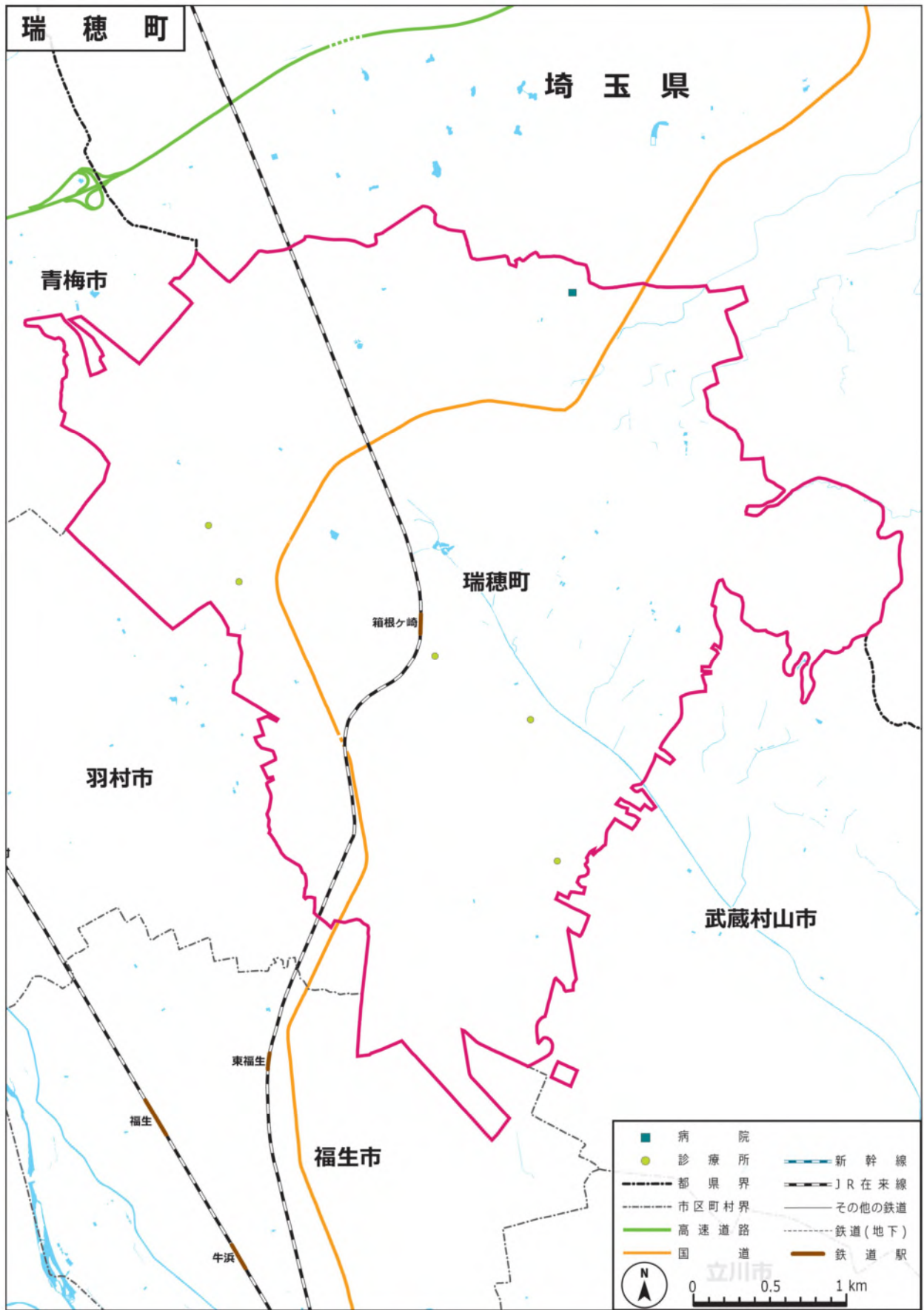
80.6 (全国第280位/全国335医療圏中) ⇒ 外来医師多数区域には該当しない

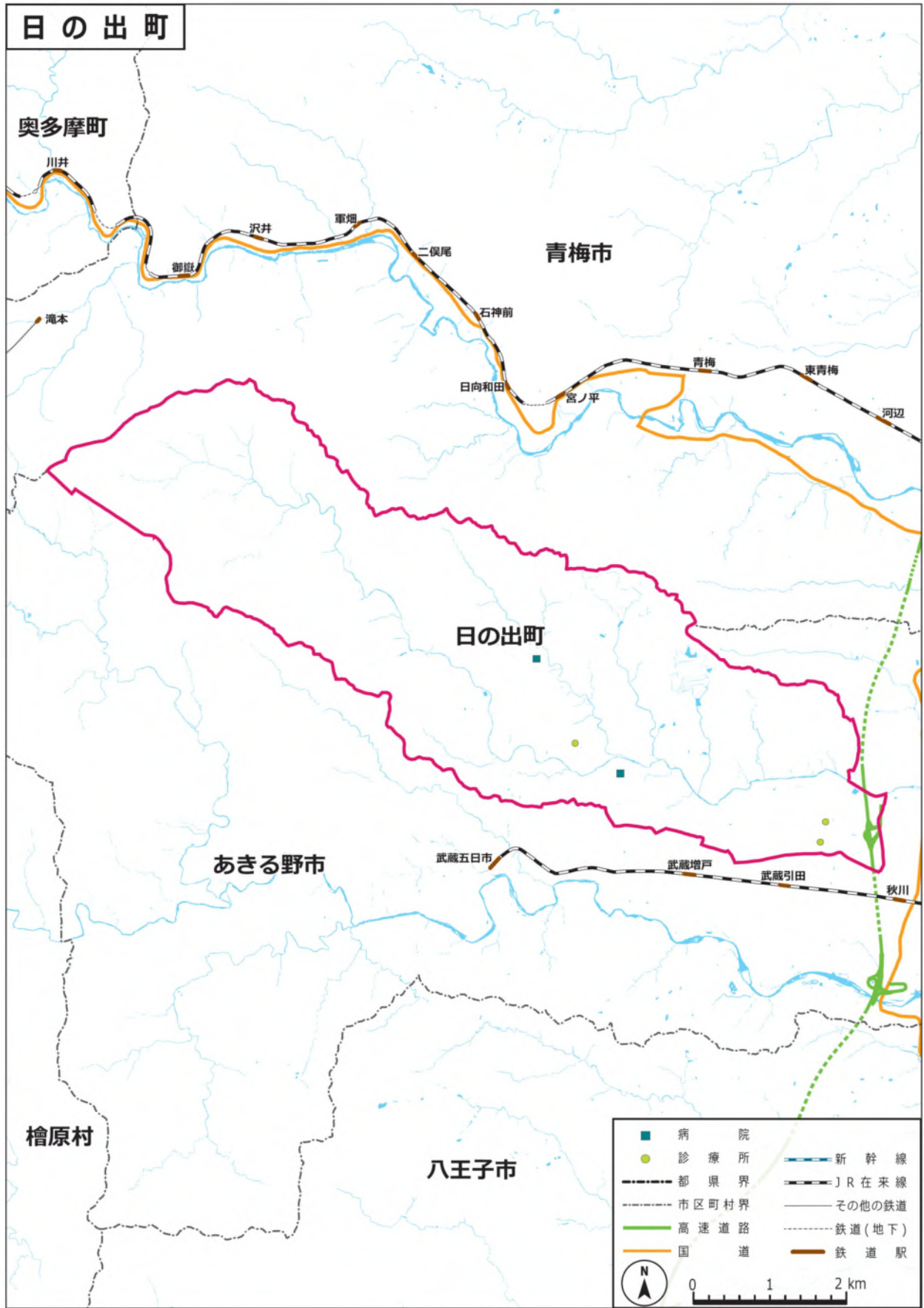












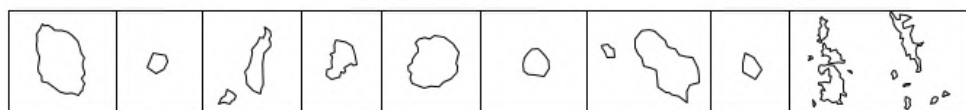




4 圏域ごとの状況

(9) 南多摩

(八王子市・町田市・日野市・多摩市・稲城市)



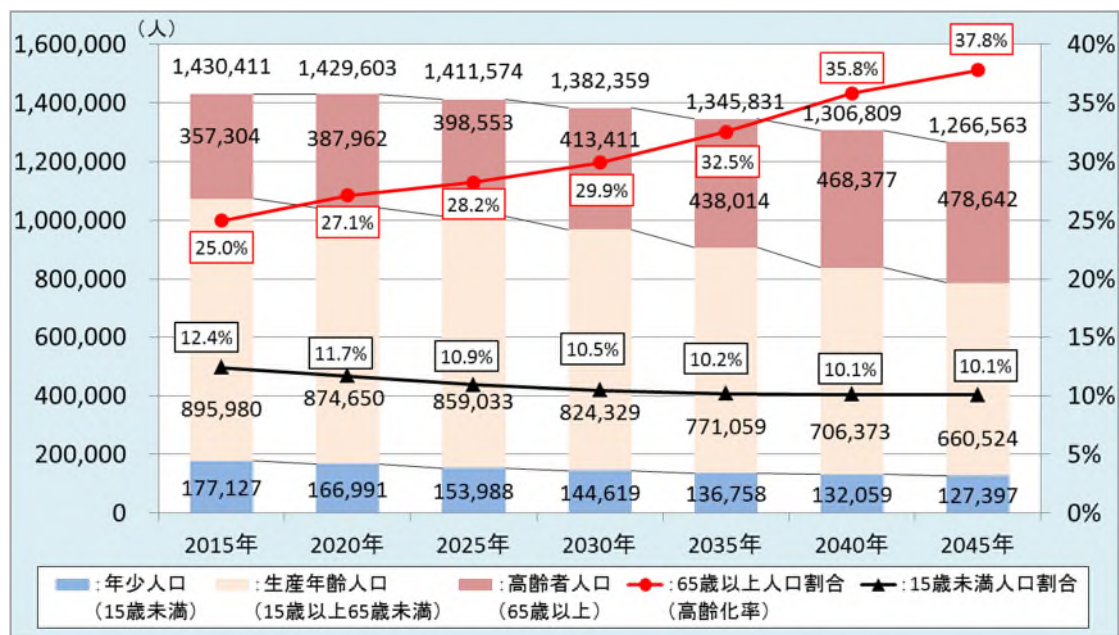
9 南多摩

(1) 人口・面積・人口密度

(人口) 1,438,886 人・(面積) 324.46 km²・(人口密度) 4,435 人/km²

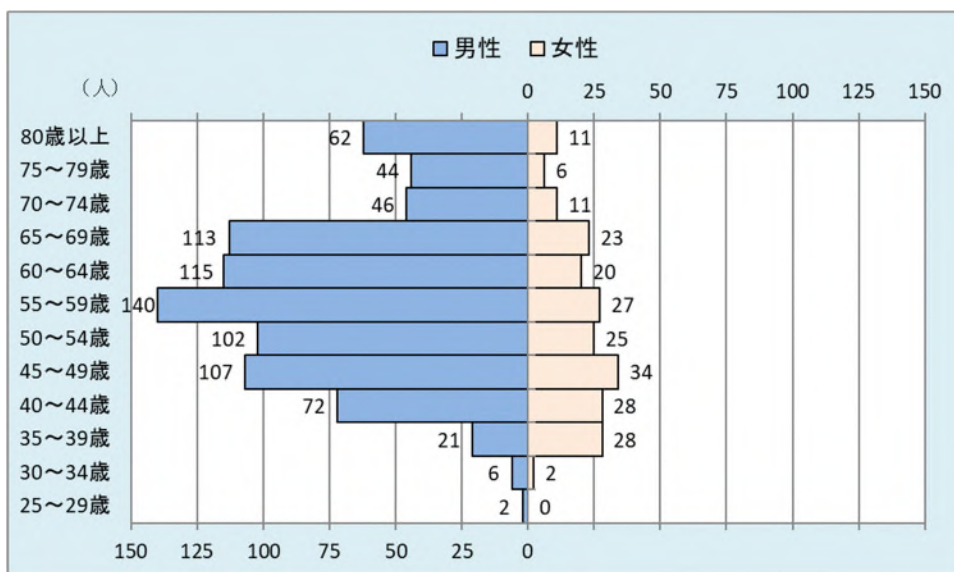
(2) 人口高齢化率の推移

- 南多摩の人口は、減少を続け、2045年には2015年比で約16万人減少する見込です。一方高齢者人口は増加を続け、2045年には約48万人に達することが予測されています。
- 高齢化率は上昇を続け、2030年に約30%、2040年に約35%に達する見込です。一方、15歳未満人口割合は、減少し続けることが予測されています。



(3) 診療所医師の年齢・性構成割合

- 男性医師では55歳以上60歳未満の区分が140人、女性医師では45歳以上50歳未満の区分が34人で、それぞれ最も多くなっています。
- 35歳以上40歳未満の区分を除く全ての年齢区分で男性医師数が女性医師数を上回っています。

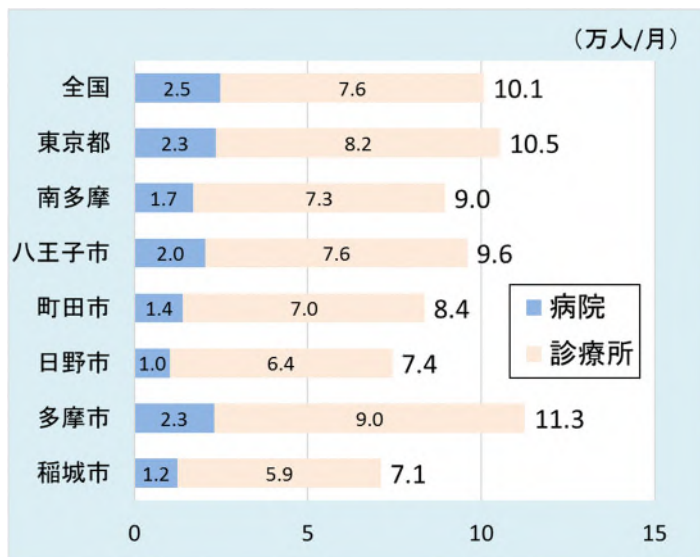


(4) 外来医療の状況

① 外来医師偏在指標

98.0 (全国第 161 位/全国 335 医療圏中)

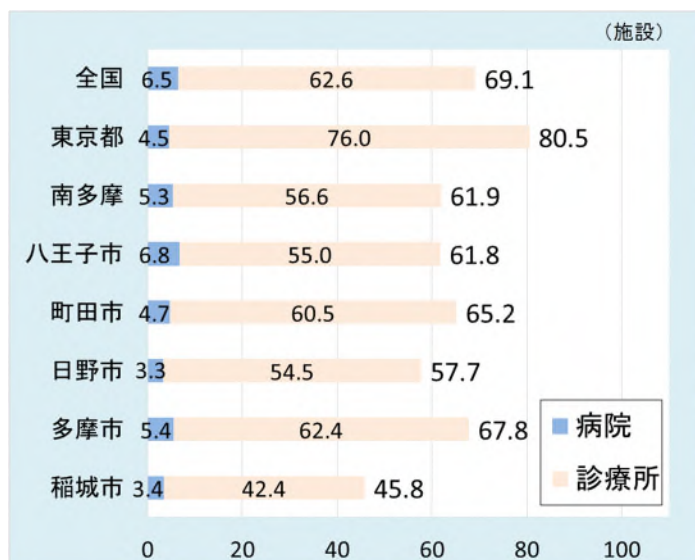
② 人口 10 万人当たりの外来患者延数 (医科レセプトの月平均算定回数)



○ 南多摩における、人口 10 万人当たりの外来患者延数は 9.0 万人で、全国や都の平均を下回っています。

○ 市別で見ると、多摩市では 11.3 万人であり、全国や都の平均を上回っていますが、他の市では全国や都の平均を下回っています。

③ 人口 10 万人当たりの外来施設数 (月平均施設数)



○ 南多摩の人口 10 万人当たり外来施設数は 61.9 施設であり、全国や都の平均を下回っています。

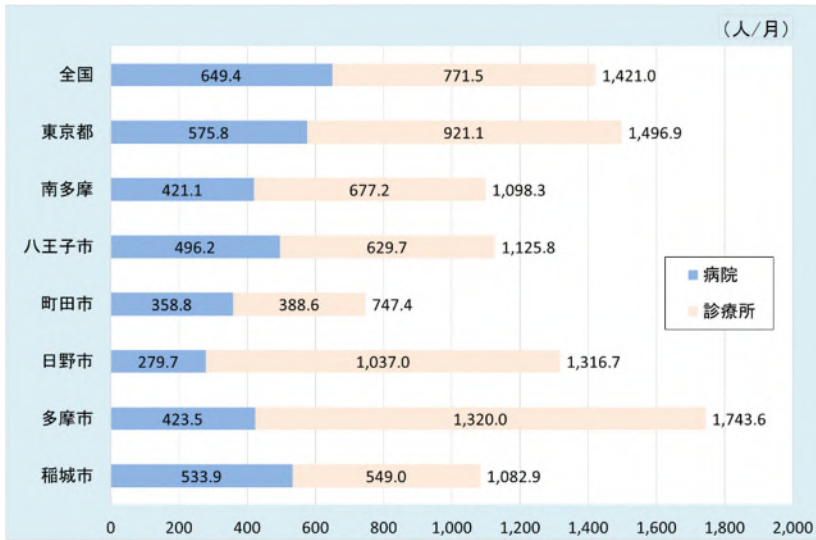
○ 市別で見ると、全ての市で全国や都の平均を下回っています。

また、多摩市や町田市が南多摩の平均を上回る一方、日野市や稲城市では平均を下回っています。

④ 外来医療機能別の状況

ア 夜間・休日における初期救急医療

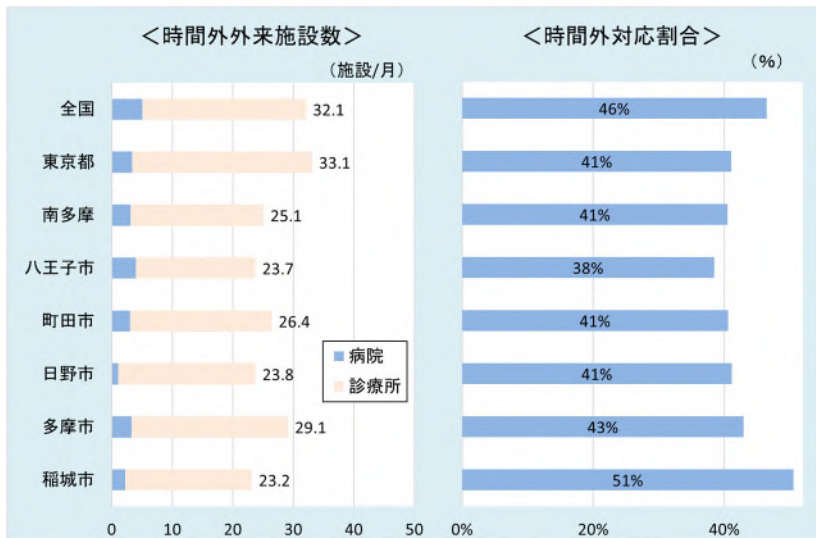
＜人口10万人当たりの時間外等外来患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）＞



○ 南多摩における人口10万人当たり時間外等外来患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）は1,098.3人/月であり、全国及び都平均を下回っています。

○ 市別では、多摩市の患者延数は1,743.6人/月で全国及び都平均を上回る一方、他の市では各平均を下回っています。

＜人口10万人当たりの時間外等外来施設数（月平均施設数）と時間外対応施設割合＞



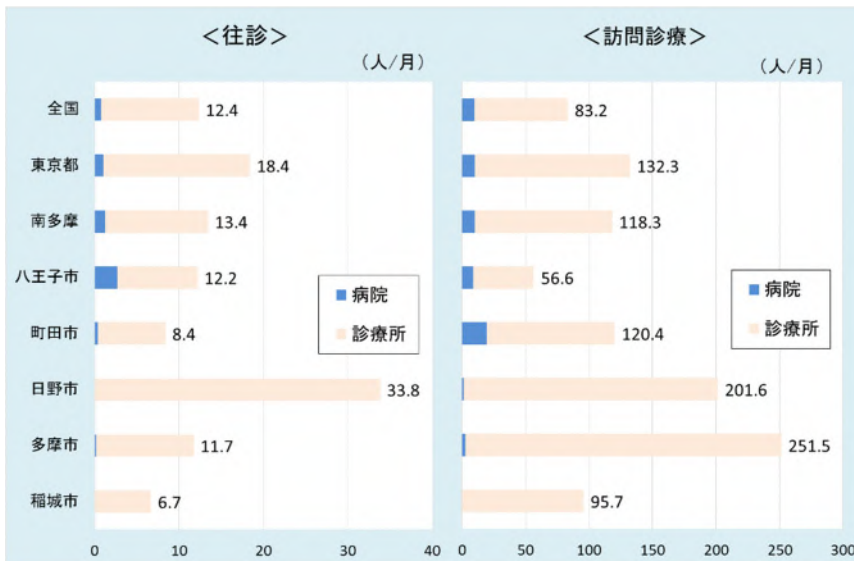
○ 南多摩における人口10万人当たりの時間外等外来施設数（月平均施設数）は25.1施設であり、全国及び都平均を下回っています。

○ 市別でも、すべての市で全国及び都平均を下回っています。

○ 外来施設のうち時間外外来診療を実施している施設の割合でみると、南多摩は41%であり、全国平均を下回っているものの、都平均と同水準です。

イ 在宅医療

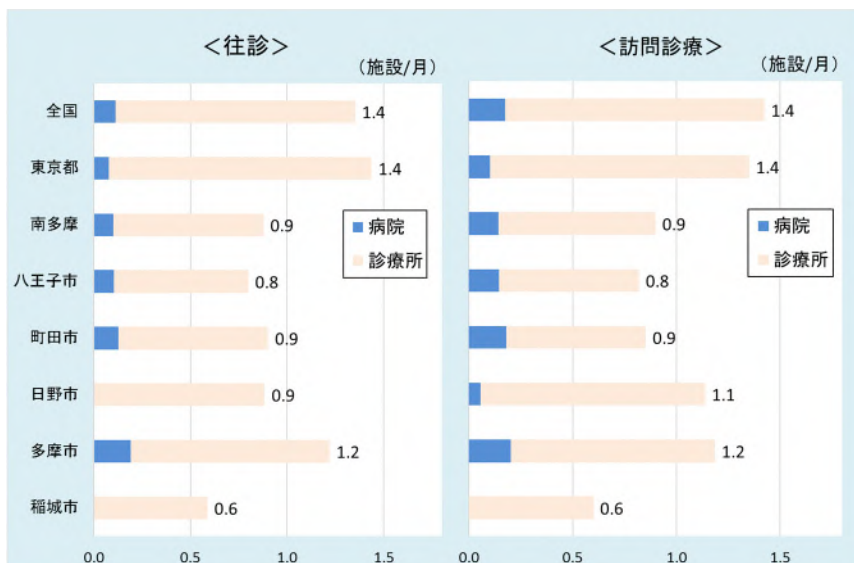
<75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）>



○ 南多摩における 75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）は、全国平均を上回る一方、都平均は下回っています。

○ 市別では、往診の患者延数は日野市が 33.8 人/月、訪問診療の患者延数は多摩市が 251.5 人/月となっています。

<75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問患者診療実施施設数（月平均施設数）>

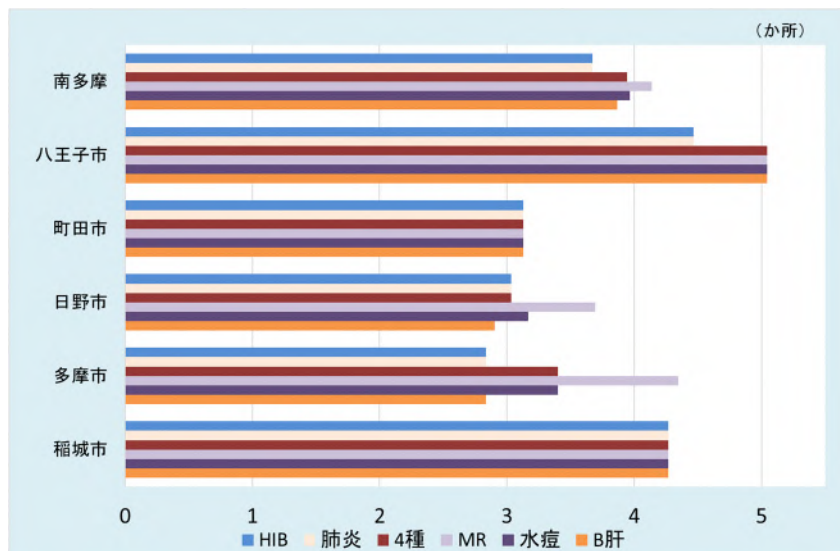


○ 南多摩における 75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療実施施設数（月平均施設数）は、全国及び都平均を下回っています。

○ 市別では、多摩市が往診・訪問診療実施施設数共に南多摩の平均を上回っています。

ウ その他の医療機能

<5歳未満人口千人当たりの予防接種提供医療機関数>



○ 5歳未満人口千人当たりの予防接種提供医療機関数は、八王子市及び稲城市が南多摩の各種類別の平均をそれぞれ上回っています。

(※) HIB…ヒブワクチン、肺炎…小児肺炎球菌、4種…DPT-IPV I期(ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ)、MR…麻しん風しん混合、水痘…水ぼうそう、B肝…B型肝炎

(5) 医療機器の状況

① 調整人口当たり台数

	調整人口当たり台数 台/10万人)				
	CT	MRI	PET	マンモグラフィー	放射線治療 (体外照射)
全国	11.1	5.5	0.46	3.4	0.91
東京都	9.2	4.8	0.49	3.5	1.43
南多摩	7.0	3.5	0.07	2.2	0.88

② 医療機器の共同利用方針

5種共通 (CT、MRI、PET、マンモグラフィー、放射線治療)

- 連携する医療機関との間で共同利用を進める。
- 保守点検を徹底し、安全管理に努める。
- 検査機器の共同利用に当たっては、画像情報、画像診断情報の共有に努める。

地域医療構想調整会議で出された意見

○不足する医療機能

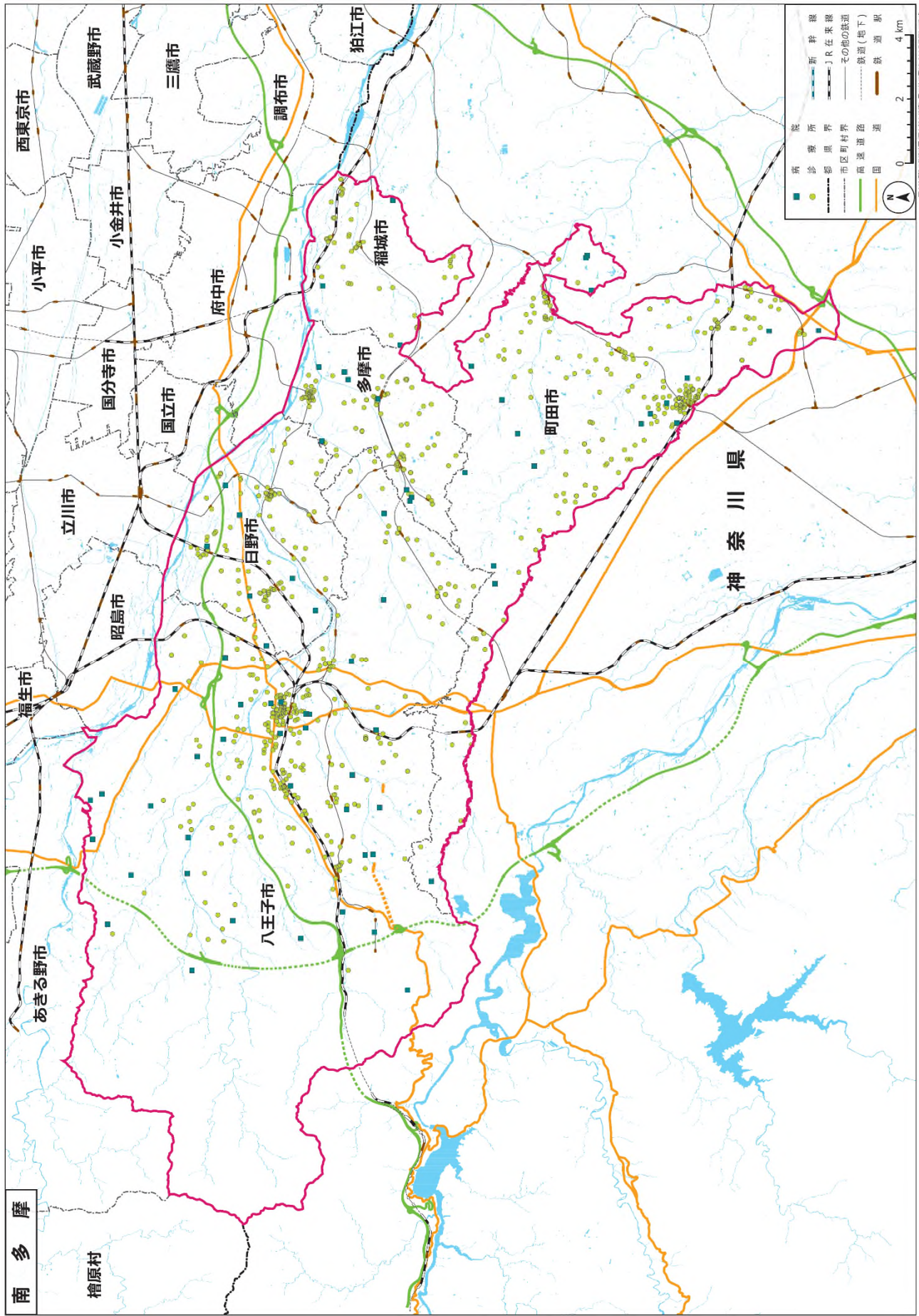
- ・分娩を扱う産科は、都内どこでも不足している。ローリスク分娩を担うクリニックが不足すると、働き方改革もあり大きな病院でも分娩の取り扱いが難しくなる。
- ・逆紹介を行う病院の意見として、血液疾患は近隣で逆紹介が難しい。病院で急性期を過ぎた患者に透析を引き続きやってくれる診療所が少ない。
- ・泌尿器科で逆紹介したい場合に、近隣にそうしたクリニックがない。心不全とか呼吸不全で入退院を繰り返す高齢患者の受け皿として、在宅医療を担う医師が増えていく必要がある。
- ・南多摩では、診療所の機能は全部足りない。休日夜間問わず救急は絶対的に足りない。在宅医の高齢化が進んでおり、日野市では 24 時間対応可能な診療所は数件しかない。
- ・大規模な在宅専門の診療所もあるが、開業の在宅医が高齢化している。訪問診療に新たに参入する医師が少なく、将来の継続性については不安
- ・在宅には、急変時の受け入れのベッドが必要だが、日野市ではそれが不安定。地域包括ケア病床の安定した経営のための支援が必要。療養型の病院から地ケアに転換することが多いが、急性期を診られる医師の人集めが厳しい。

○休日夜間診療

- ・稲城市の時間外の外来対応割合が実感に合わない。休日診療を実際にやっているところは 3 か所しかない。時間外加算を基にしたデータでは、実際の休日夜間の不足感と異なる。

○診療科別

- ・診療科別の検討が必要



外来医師偏在指標

98.0 (全国第 161 位/全国 335 医療圏中) ⇒ 外来医師多数区域には該当しない

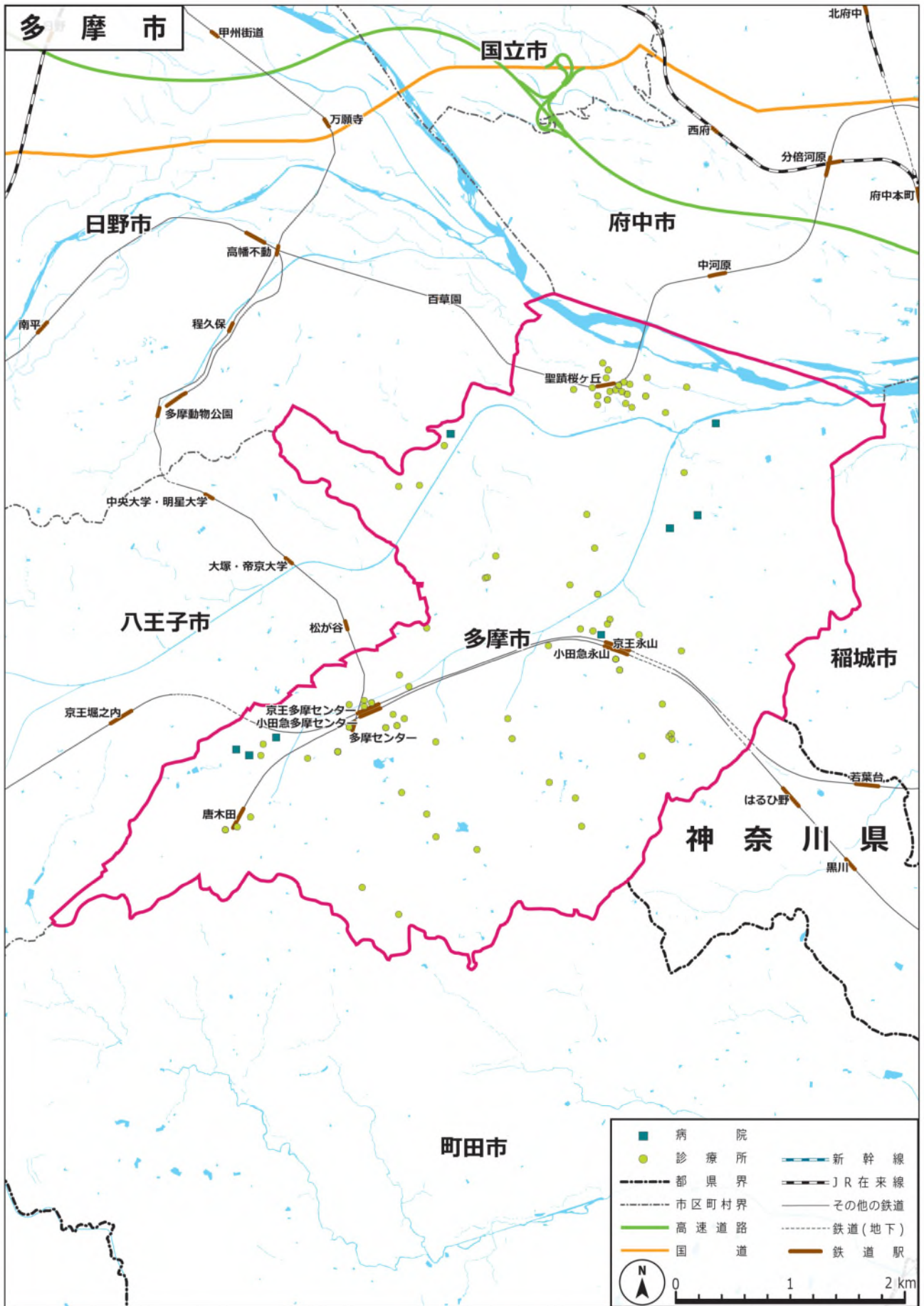


国土地理院の数値地図(国土基本情報)、電子地形図(タイル)を使用して作成



国土地理院の数値地図(国土基本情報)、電子地形図(タイル)を使用して作成





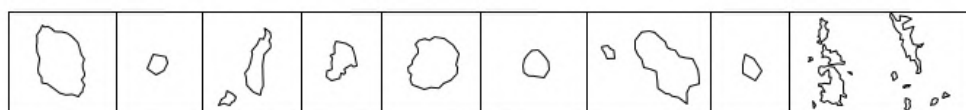
国土地理院の数値地図(国土基本情報)、電子地形図(タイル)を使用して作成



4 圏域ごとの状況

(10) 北多摩西部

(立川市・昭島市・国分寺市・国立市・東大和市・武蔵村山市)



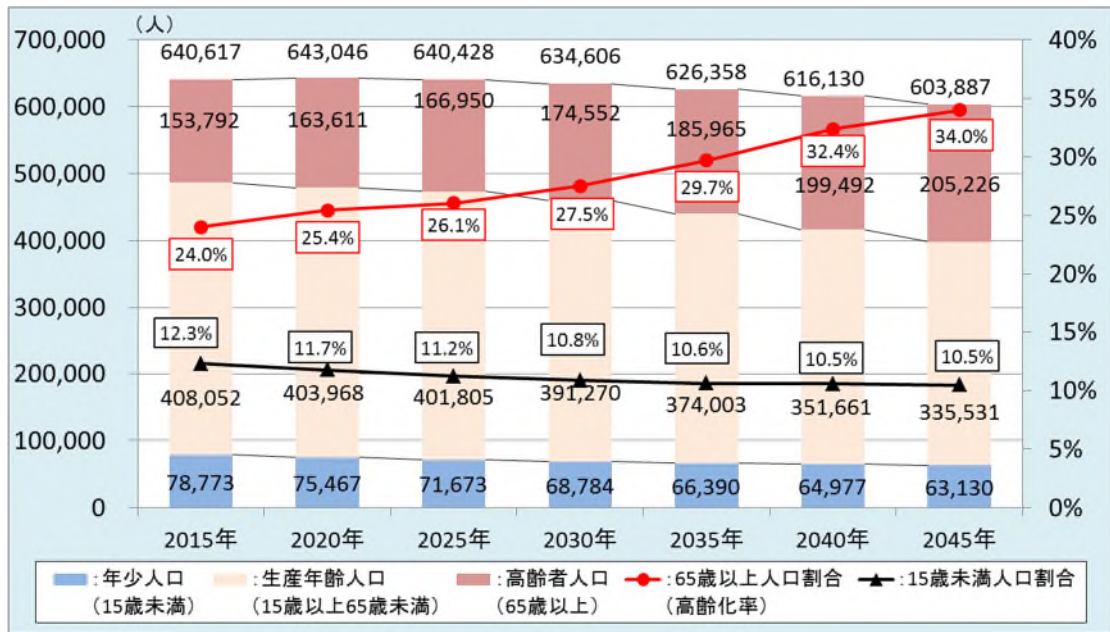
10 北多摩西部

(1) 人口・面積・人口密度

(人口) 650,088 人・(面積) 90.05 km²・(人口密度) 7,219 人/km²

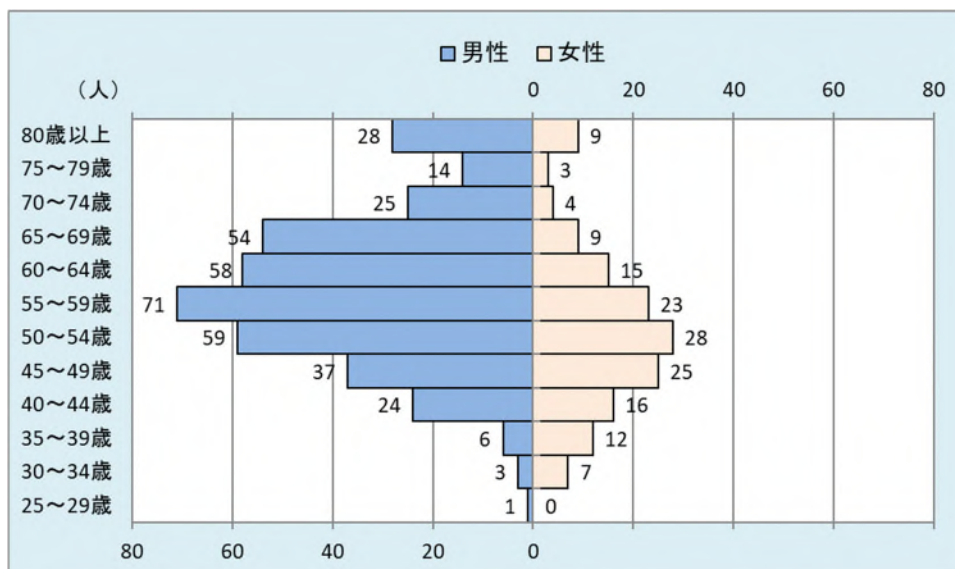
(2) 人口高齢化率の推移

- 北多摩西部の人口は、減少傾向にあり、2045年には約60万人となる見込みです。一方で、高齢者人口は増加を続け、2040年には約20万人に達することが予測されています。
- 高齢化率は上昇を続け、2020年には25%を超え、2045年には約35%に達することが見込まれています。



(3) 診療所医師の年齢・性構成割合

- 男性医師では55歳以上60歳未満の区分が71人、女性医師では50歳以上55歳未満の区分が28人で、それぞれ最も多くなっています。
- 40歳以上の全ての年齢区分で、男性医師数が女性医師数を上回っています。

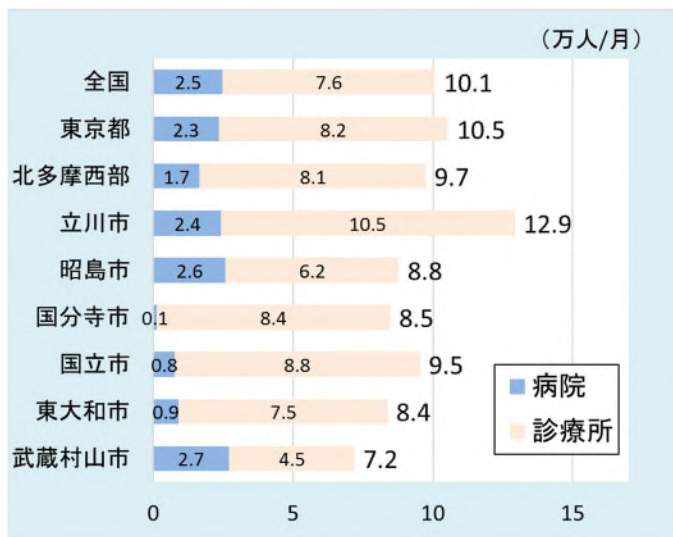


(4) 外来医療の状況

① 外来医師偏在指標

96.6 (全国第 170 位/全国 335 医療圏中)

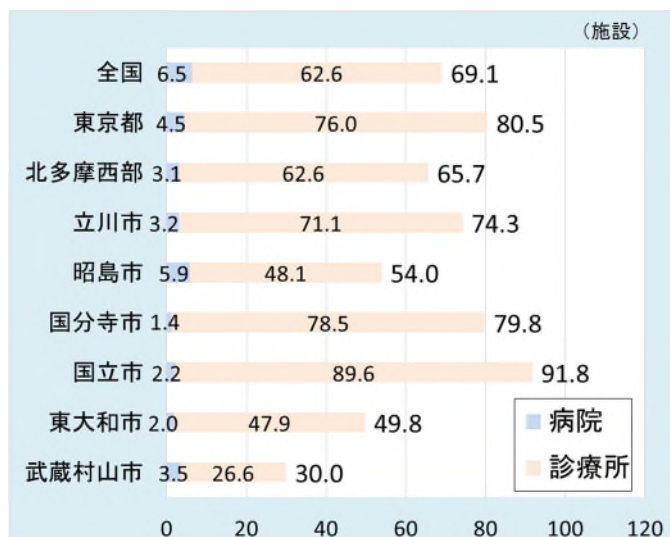
② 人口 10 万人当たりの外来患者延数 (医科レセプトの月平均算定回数)



○ 北多摩西部における、人口 10 万人当たりの外来患者延数は 9.7 万人で、全国や都の平均を下回っています。

○ 市別で見ると、立川市では 12.9 万であり、全国や都の平均を上回っていますが、他の市では全国や都の平均を下回っています。

③ 人口 10 万人当たりの外来施設数 (月平均施設数)



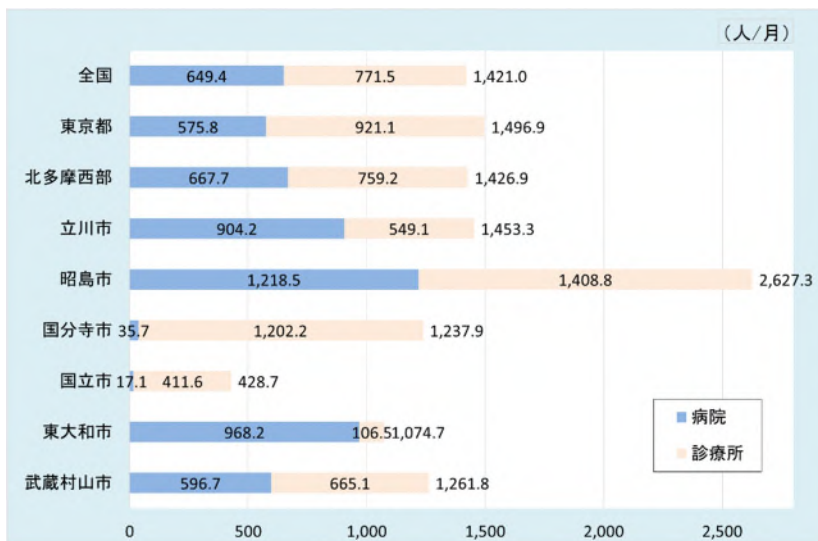
○ 北多摩西部の人口 10 万人当たり外来施設数は 65.7 施設であり、全国や都の平均を下回っています。

○ 市別で見ると、国立市では 91.8 施設であり、全国や都の平均を上回っています。武蔵村山市では 30.0 施設であり、都の平均の約 4 割となっています。

④ 外来医療機能別の状況

ア 夜間・休日における初期救急医療

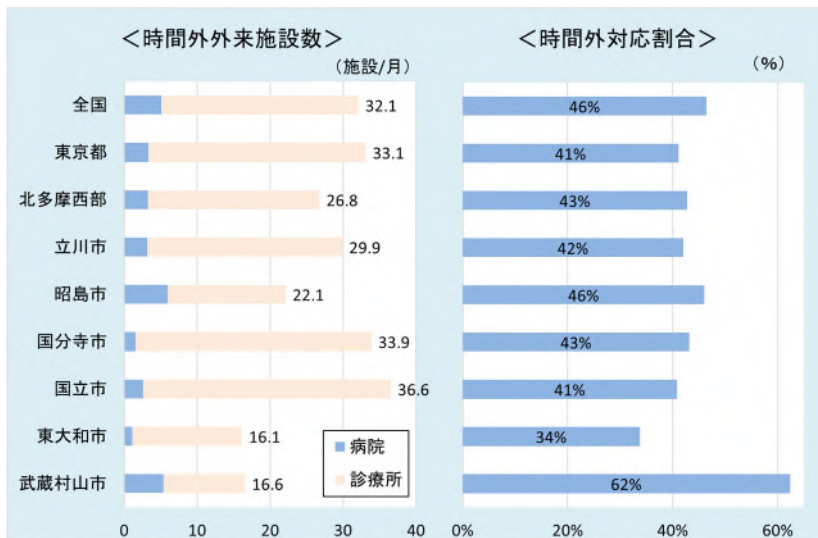
<人口 10 万人当たりの時間外等外来患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）>



○ 北多摩西部における人口 10 万人当たり時間外等外来患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）は 1,426.9 人/月であり、全国平均と同水準である一方、都平均は下回っています。

○ 市別では、昭島市が 2,627.3 人/月であり、全国及び都平均の約 1.8 倍です。また、東大和市では病院の患者割合が高く、国分寺市や国立市では診療所の患者割合が高くなっています。

<人口 10 万人当たりの時間外等外来施設数（月平均施設数）と時間外対応施設割合>



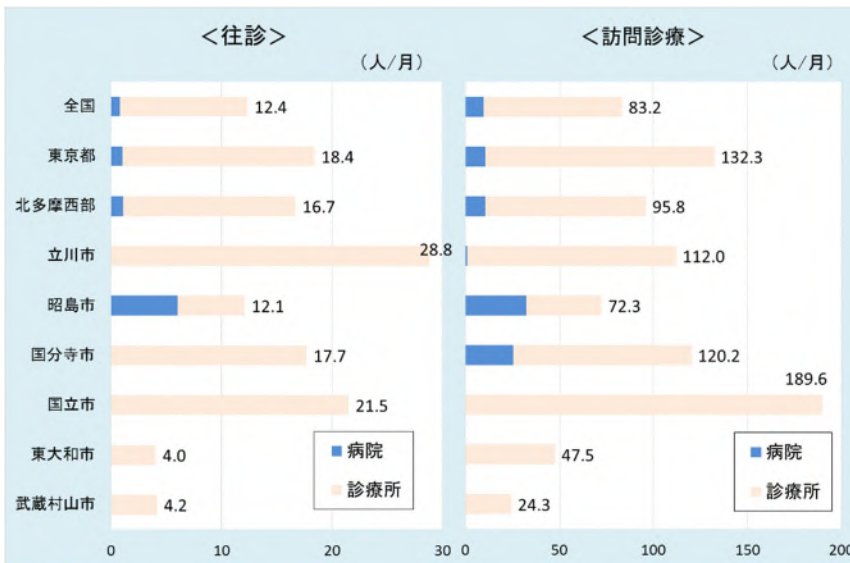
○ 北多摩西部における人口 10 万人当たりの時間外等外来施設数（月平均施設数）は 26.8 施設であり、全国及び都平均を下回っています。

○ 市別では、国分寺市及び国立市が全国及び都平均を上回っています。

○ 外来施設のうち時間外外来診療を実施している施設の割合でみると、北多摩西部は 43% であり、全国平均を下回る一方、都平均を上回っています。

イ 在宅医療

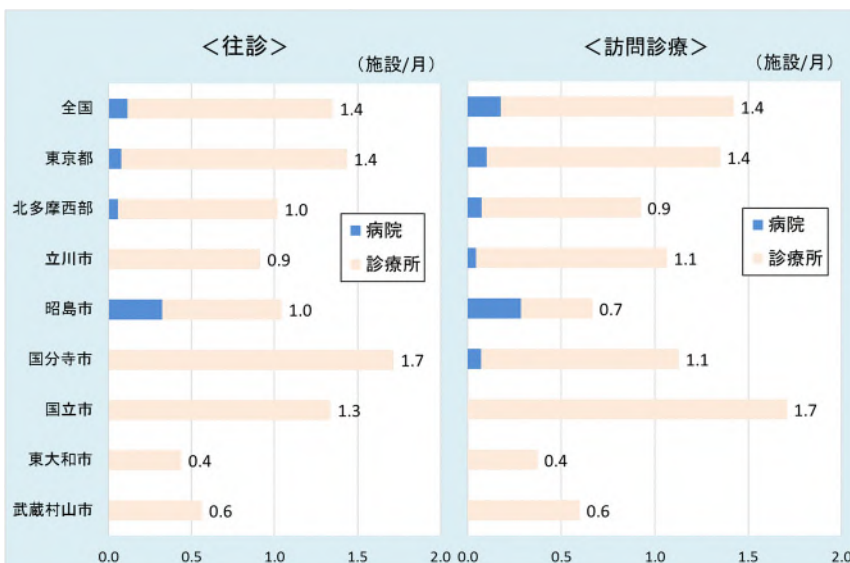
<75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）>



○ 北多摩西部における 75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療患者延数（医科レセプトの月平均算定回数）は、全国平均を上回る一方、都平均を下回っています。

○ 市別では、往診の患者延数は立川市が 28.8 人/月、訪問診療の患者延数は国立市が 189.6 人/月となっています。

<75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問患者診療実施施設数（月平均施設数）>

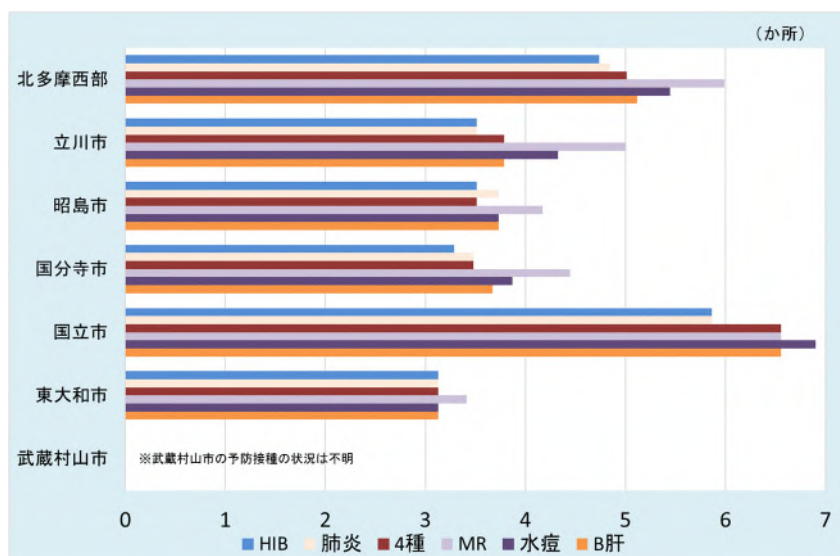


○ 北多摩西部における 75 歳以上人口千人当たりの往診及び訪問診療実施施設数（月平均施設数）は全国及び都平均を下回っています。

○ 市別では、往診実施施設数では国分寺市が、訪問診療実施施設数では国立市が、それぞれ全国及び都平均を上回っています。

ウ その他の医療機能

<5歳未満人口千人当たりの予防接種提供医療機関数>



○ 5歳未満人口千人当たりの予防接種提供医療機関数は、国立市が多い傾向にあります。

(※) Hib…ヒブワクチン、肺炎…小児肺炎球菌、4種…DPT-IPV I期(ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオ)、MR…麻疹風疹混合、水痘…水ぼうそう、B肝…B型肝炎

(5) 医療機器の状況

① 調整人口当たり台数

	調整人口当たり台数 台/10万人				
	CT	MRI	PET	マンモグラフィー	放射線治療 (体外照射)
全国	11.1	5.5	0.46	3.4	0.91
東京都	9.2	4.8	0.49	3.5	1.43
北多摩西部	7.9	4.4	0.66	3.3	0.66

② 医療機器の共同利用方針

5種共通 (CT、MRI、PET、マンモグラフィー、放射線治療)

- 連携する医療機関との間で共同利用を進める。
- 保守点検を徹底し、安全管理に努める。
- 検査機器の共同利用に当たっては、画像情報、画像診断情報の共有に努める。

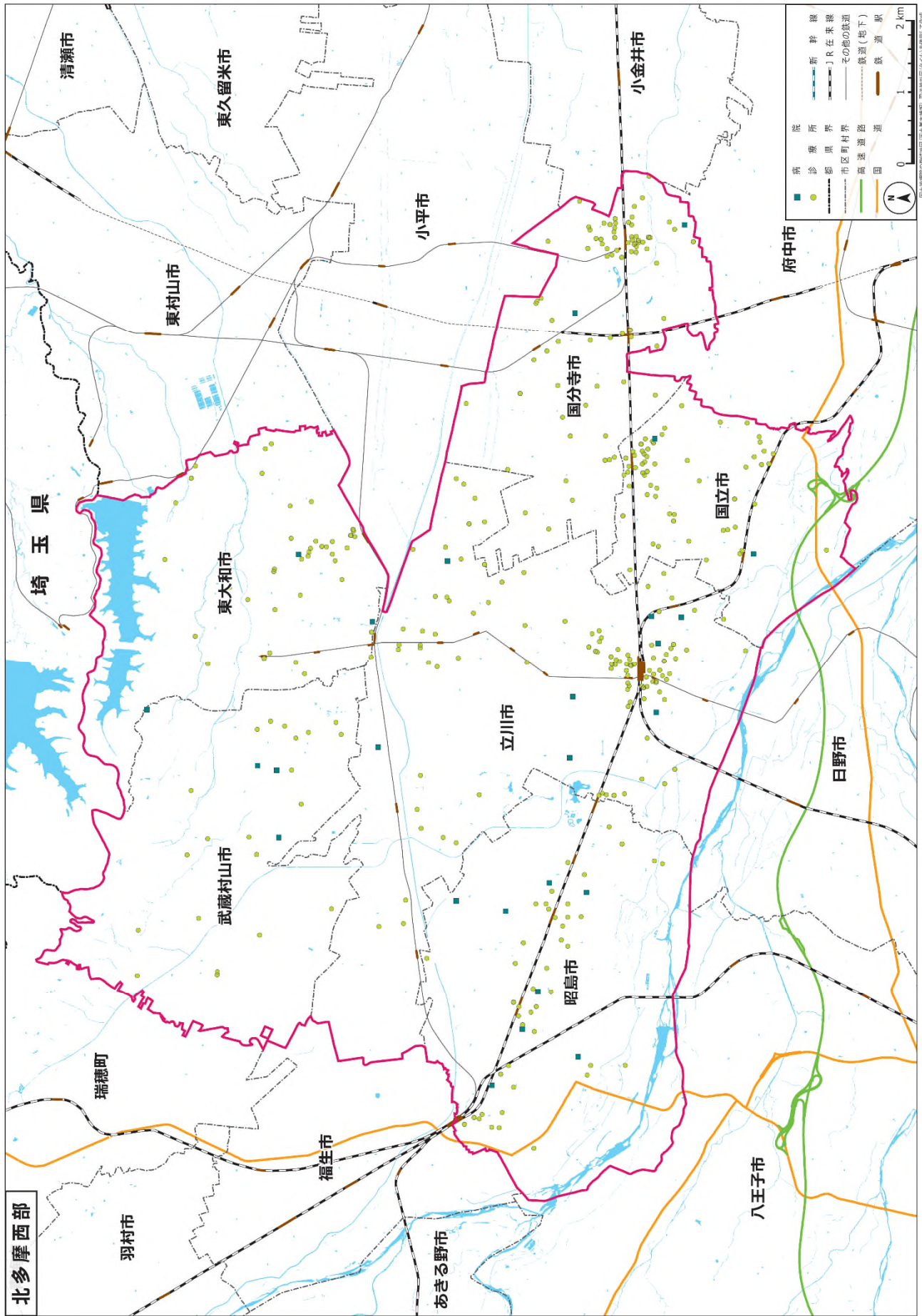
地域医療構想調整会議で出された意見

○地域ごとの状況

- ・国分寺市は西側に医療機関が少ない。特定健診の実施について、立川市との乗り入れを希望する住民の声もある。
- ・今年12名の入会者が立川市医師会ではあった。立川市では需要が十分あると判断されたと思われる。
- ・武蔵村山市は医療過疎。非常に多くの外来患者を病院で支えている。病院と診療所の機能分化が進んでいったとしても、地域の診療所だけで地域を支えるは厳しい。
- ・武蔵村山市では、医師会の医師が学校医等の公衆衛生的な機能を全部担っている。病院でも夜間の初期救急機能、学校医、予防接種などを受けている。武蔵村山市ではすべての機能が不足している。
- ・北多摩西部圏域の中でも、外来医療の充実度は、北と南、中央部で大分まだらに差がある。

○紹介・逆紹介

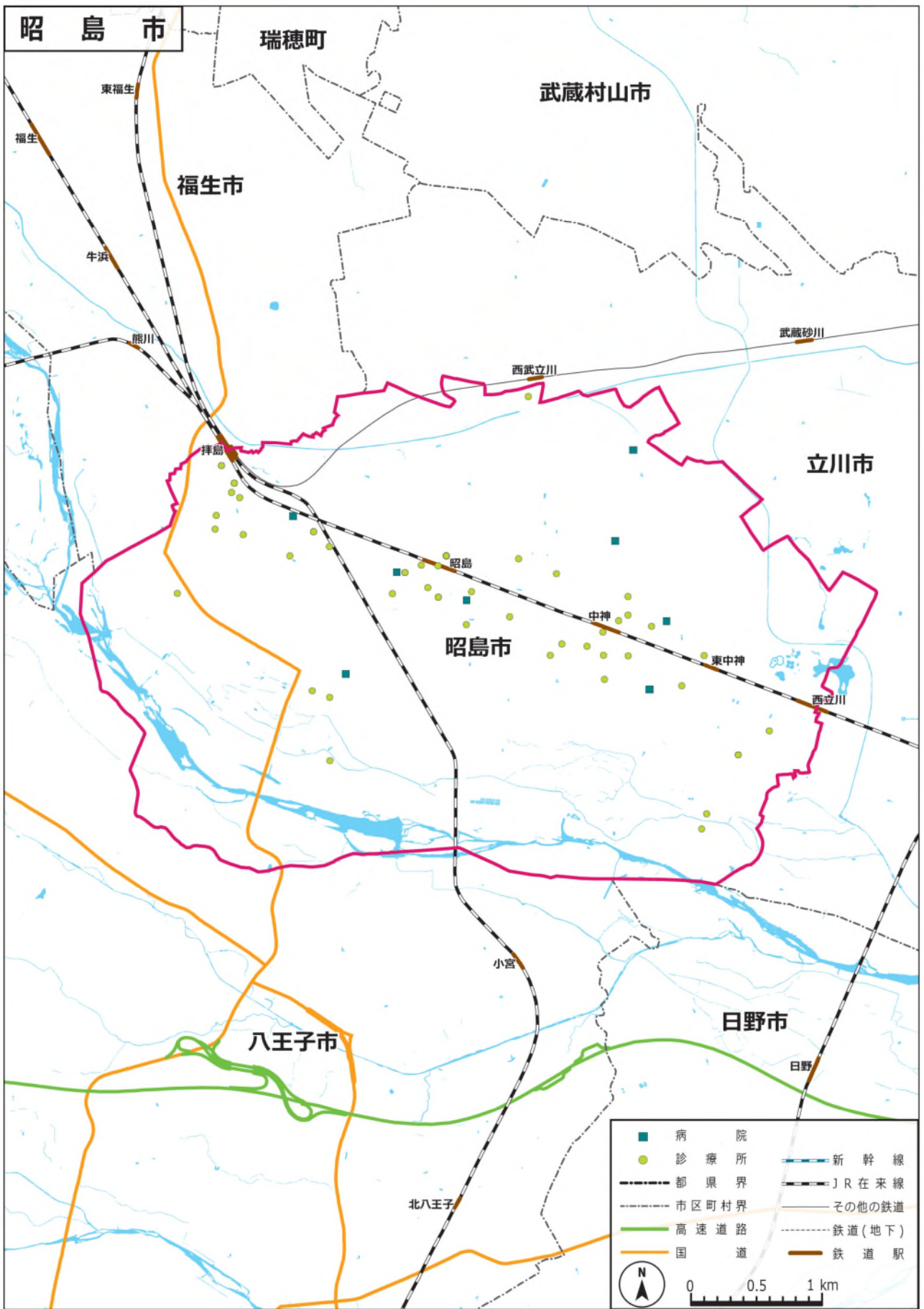
- ・逆紹介する病院の立場としては、整形の患者は非常に数が多く、診療所の機能が足りないと感じる。
- ・200床以上の病院に紹介状なしで罹る際に、初診料が上がる話がある。内科であれば街中にクリニックも多いが、それ以外の科については患者も病院も困ってしまうのではないか。
- ・状態が安定していないと、すぐに病院に戻ってきてしまうので、慢性的な心不全の場合は逆紹介をにくい。



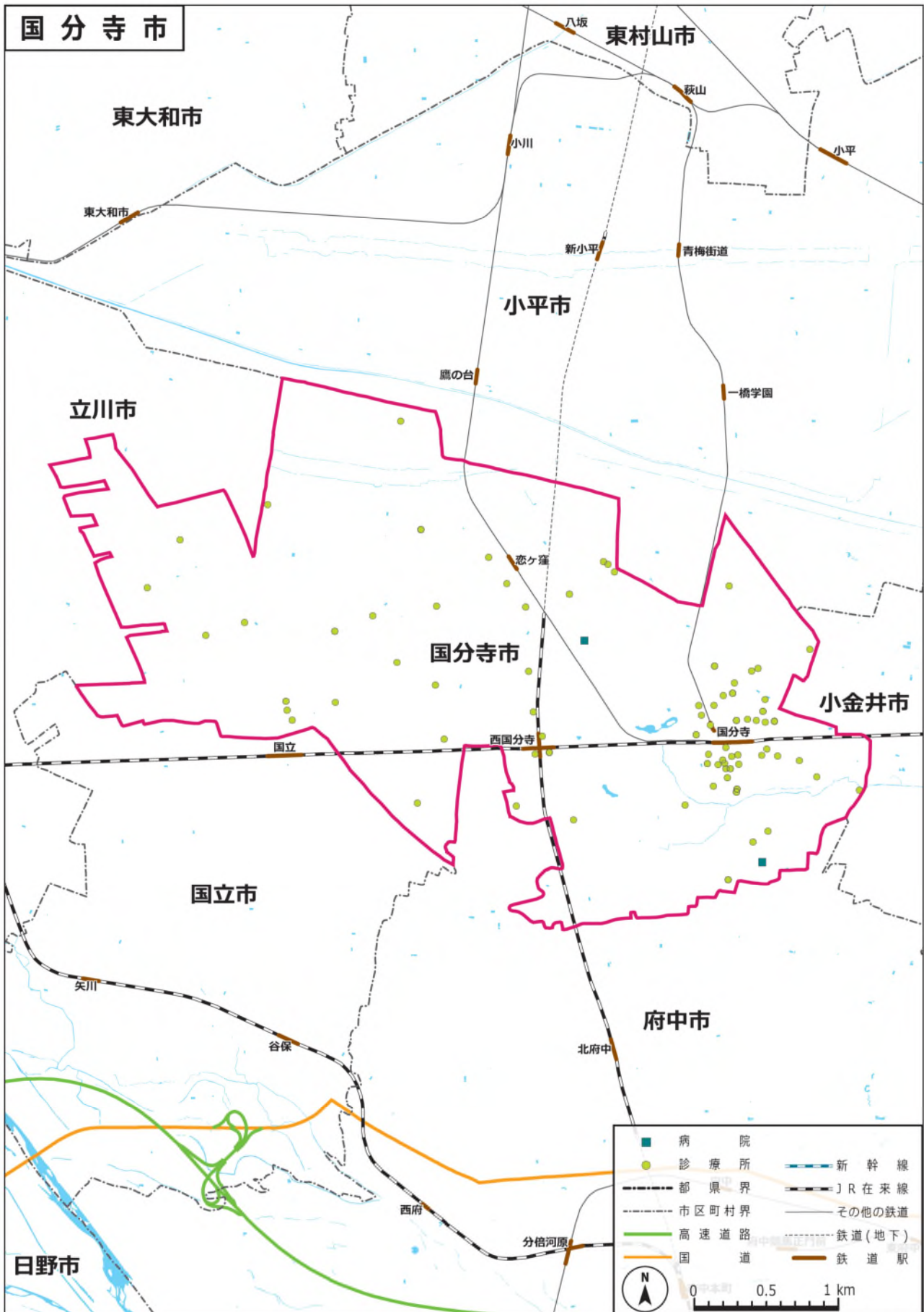
外来医師偏在指標

96.6 (全国第 170 位/全国 335 医療圏中) ⇒ 外来医師多数区域には該当しない





国土地理院の数値地図(国土基本情報)、電子地形図(タイル)を使用して作成





東大和市



国土地理院の数値地図(国土基本情報)、電子地形図(タイル)を使用して作成

